

県内避難者アンケート調査結果

平成 2 5 年 7 月

秋 田 県 企 画 振 興 部

総合政策課被災者受入支援室

目 次

I 調査の趣旨・概要	・ ・ ・ ・ ・	P 1
II 主な設問に対する回答		
【1】 避難元の県	・ ・ ・ ・ ・	P 2
【2】 記入者の年代	・ ・ ・ ・ ・	P 2
【3】 現在の住居	・ ・ ・ ・ ・	P 3
【4】 世帯構成	・ ・ ・ ・ ・	P 4
【5】 住民票の異動	・ ・ ・ ・ ・	P 5
【6】 住民票を異動しない理由	・ ・ ・ ・ ・	P 5
【7】 秋田県に避難してきた理由	・ ・ ・ ・ ・	P 6
【8】 秋田県内での相談相手	・ ・ ・ ・ ・	P 7
【9】 主な生活資金	・ ・ ・ ・ ・	P 8
【10】 生活費の変化	・ ・ ・ ・ ・	P 9
【11】 心身の状況	・ ・ ・ ・ ・	P 10
【12】 行政サービス	・ ・ ・ ・ ・	P 11
【13】 情報提供の状況	・ ・ ・ ・ ・	P 12
【14】 情報提供の手段	・ ・ ・ ・ ・	P 13
【15】 今後の予定	・ ・ ・ ・ ・	P 14
【16】 秋田県への定住の期間	・ ・ ・ ・ ・	P 16
【17】 定住にあたって必要な支援	・ ・ ・ ・ ・	P 17
【18】 帰県の時期を決めない理由	・ ・ ・ ・ ・	P 18
【19】 必要な支援	・ ・ ・ ・ ・	P 19
III 自由記述:主なもの		
【1】 避難先自治体に対する要望	・ ・ ・ ・ ・	P 21
【2】 国に対する要望	・ ・ ・ ・ ・	P 30
【3】 避難元自治体に対する要望	・ ・ ・ ・ ・	P 40
【4】 避難者支援に対する意見	・ ・ ・ ・ ・	P 47
IV 平成24年度アンケート結果との比較	・ ・ ・ ・ ・	P 54
V アンケート調査票	・ ・ ・ ・ ・	P 62

I 調査の趣旨・概要

1 目的

東日本大震災から2年2月が経過したが、秋田県に避難してきた方々の避難生活も長期化していることから、改めて、支援ニーズを把握し、今後の支援施策の検討の参考とするとともに、避難している方々の思いを被災県や避難元市町村等に伝えることを目的とする。

2 実施時期等

平成25年5月27日に対象世帯へ調査用紙を郵送

3 対象世帯

県内の避難世帯 478世帯

4 回収方法

郵送によるアンケート調査票の回収

5 回答率

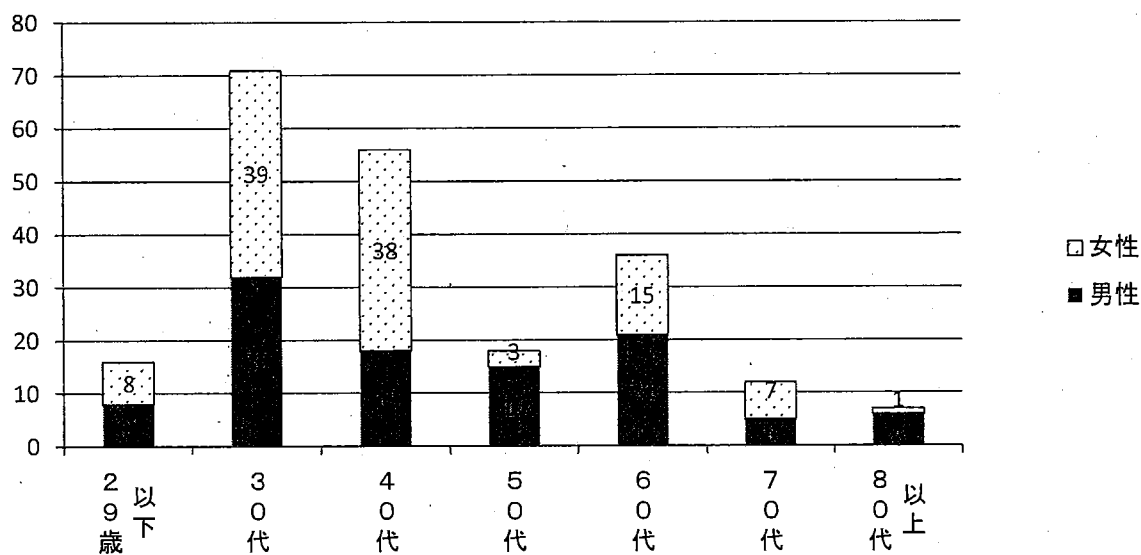
46.0% (220世帯)

Ⅱ 主な設問に対する回答

【1】 避難元の県

		件数	割合
①	岩手県	9	4.1%
②	宮城県	50	22.7%
③	福島県	161	73.2%
	計	220	

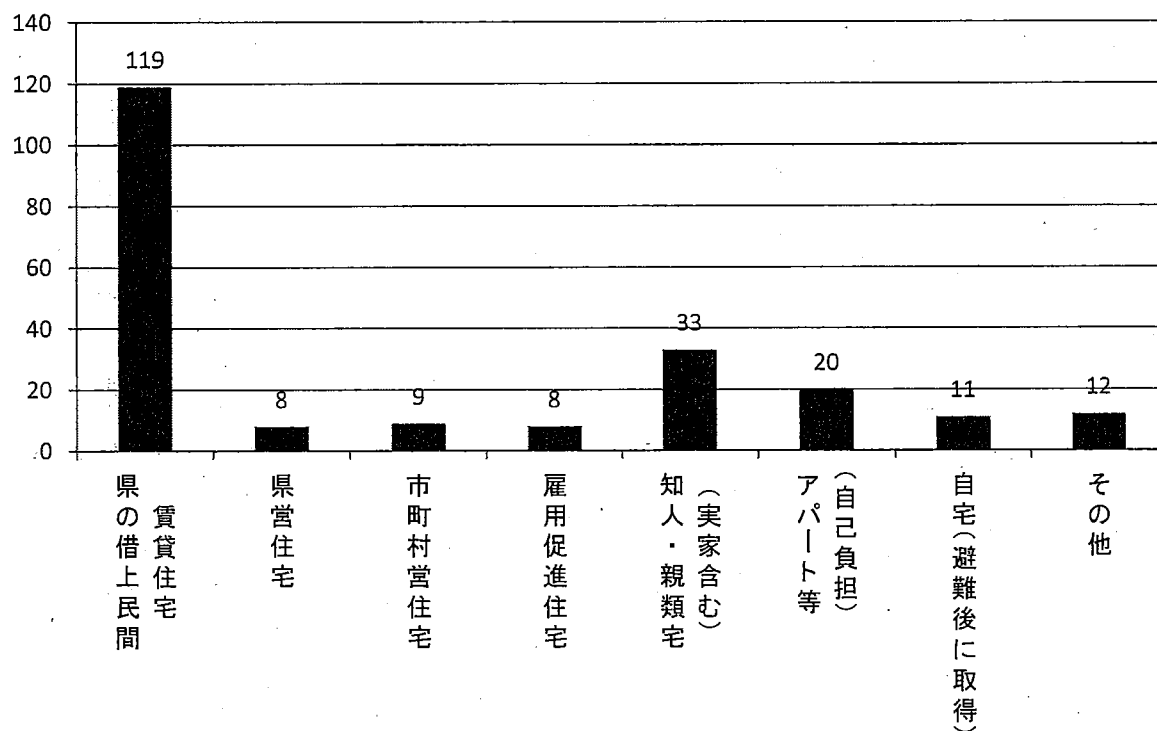
【2】 記入者の年代



		内 訳						
		男性	女性	合計	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	29歳以下	8	8	16	0	0	16	0
②	30代	32	39	71	1	17	53	0
③	40代	18	38	56	2	6	48	0
④	50代	15	3	20	1	8	11	0
⑤	60代	21	15	36	2	12	22	0
⑥	70代	5	7	14	1	5	8	0
⑦	80代以上	6	1	7	2	2	3	0
	合計	105	111	220	9	50	161	0

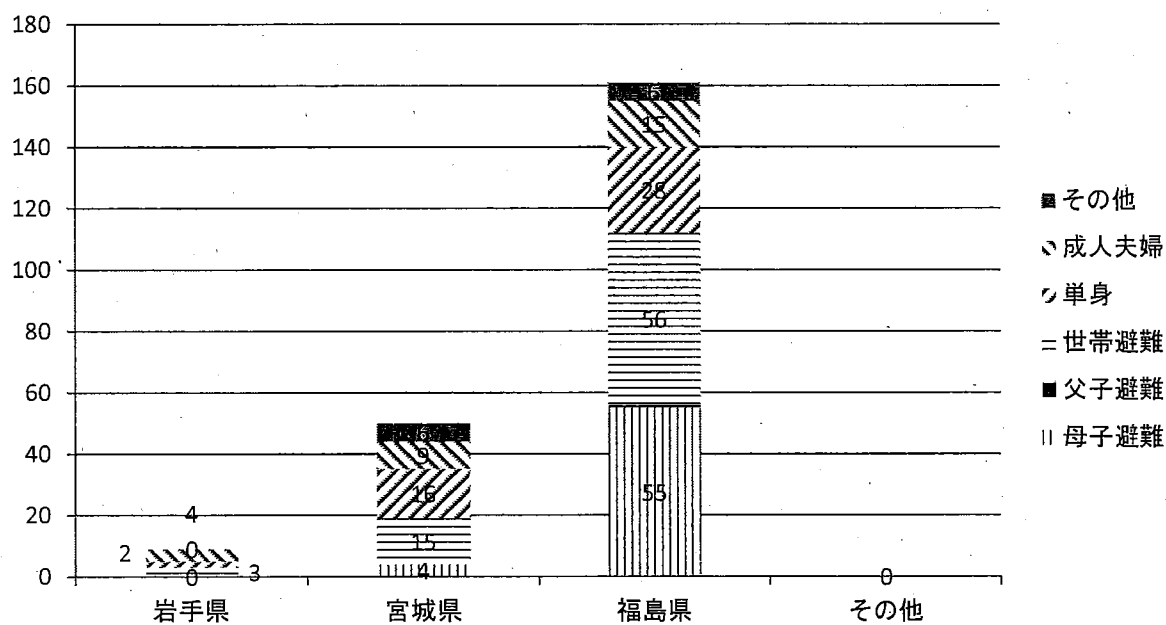
性別無回答: 4名

【3】現在の住居



			内 訳				
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	県の借上民間 賃貸住宅	119	54.1%	2	17	100	0
②	県営住宅	8	3.6%	1	3	4	0
③	市町村営住宅	9	4.1%	1	2	6	0
④	雇用促進住宅	8	3.6%	0	1	7	0
⑤	知人・親類宅 (実家含む)	33	15.0%	2	10	21	0
⑥	アパート等 (自己負担)	20	9.1%	0	9	11	0
⑦	自宅(避難後に取得)	11	5.0%	1	3	7	0
⑧	その他	12	5.5%	2	5	5	0
	合計	220		9	50	161	0

【4】 世帯構成



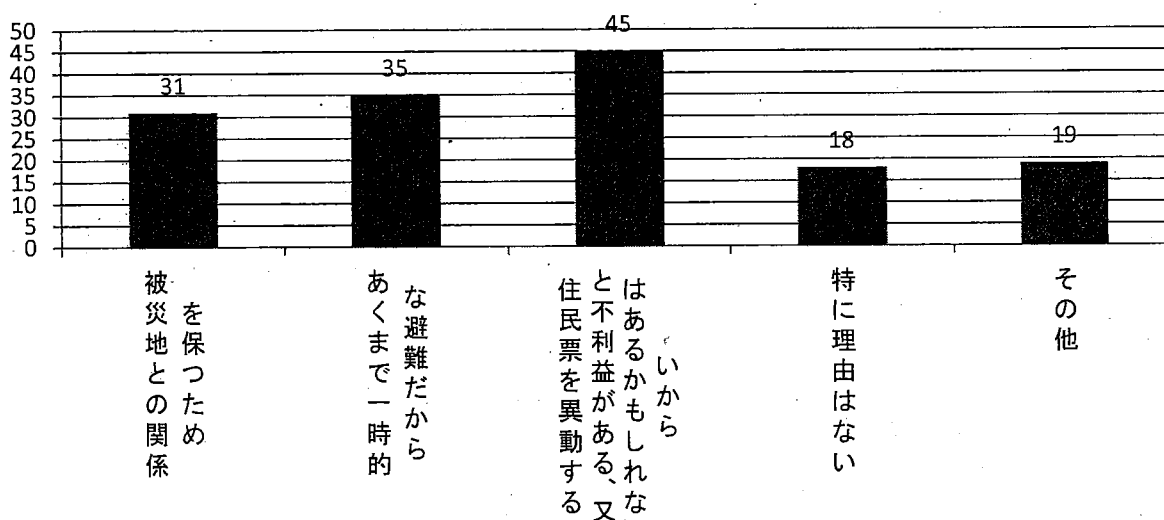
		全 体		内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
子育て世帯	母子避難	59	26.8%	0	4	55	0
	父子避難	1	0.5%	0	0	1	0
	世帯避難	74	33.6%	3	15	56	0
成人世帯	単身	46	20.9%	2	16	28	0
	成人夫婦	28	12.7%	4	9	15	0
	その他	12	5.5%	0	6	6	0
合計		220		9	50	161	0

【5】 住民票の異動について

		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	全員異動している	95	43.2%	7	29	59	0
②	全員異動していない	108	49.1%	2	17	89	0
③	一部だけ異動している	16	7.3%	0	4	12	0
合 計		219		9	50	160	0

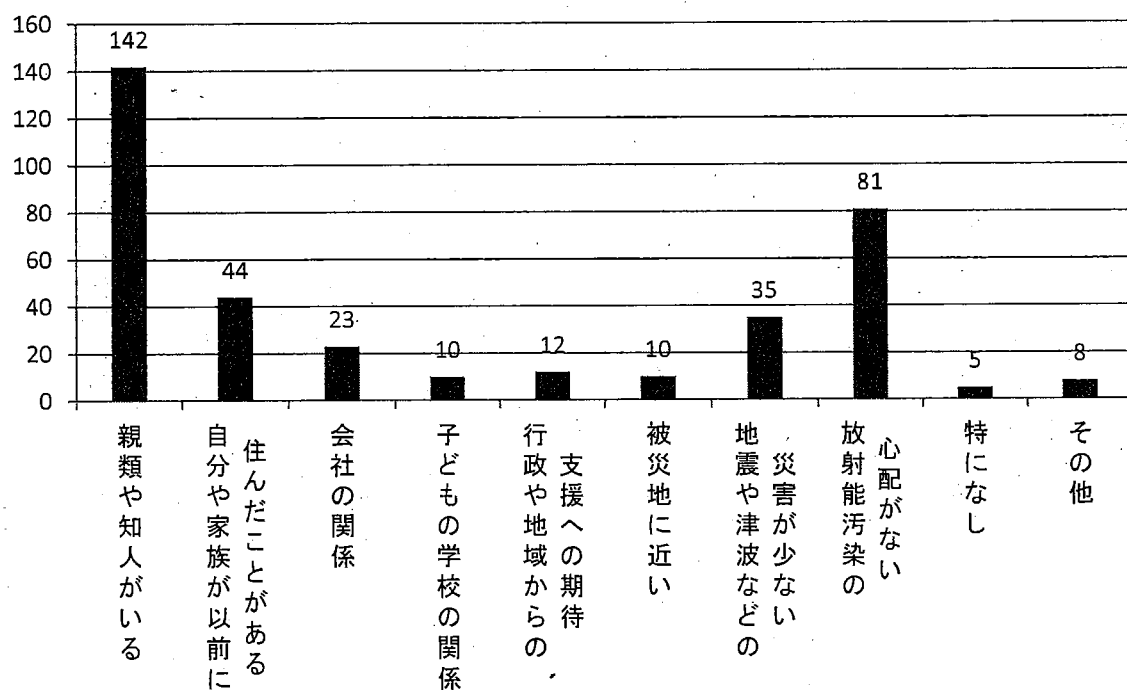
無回答:1名

【6】 住民票を異動しない理由(複数回答有り)



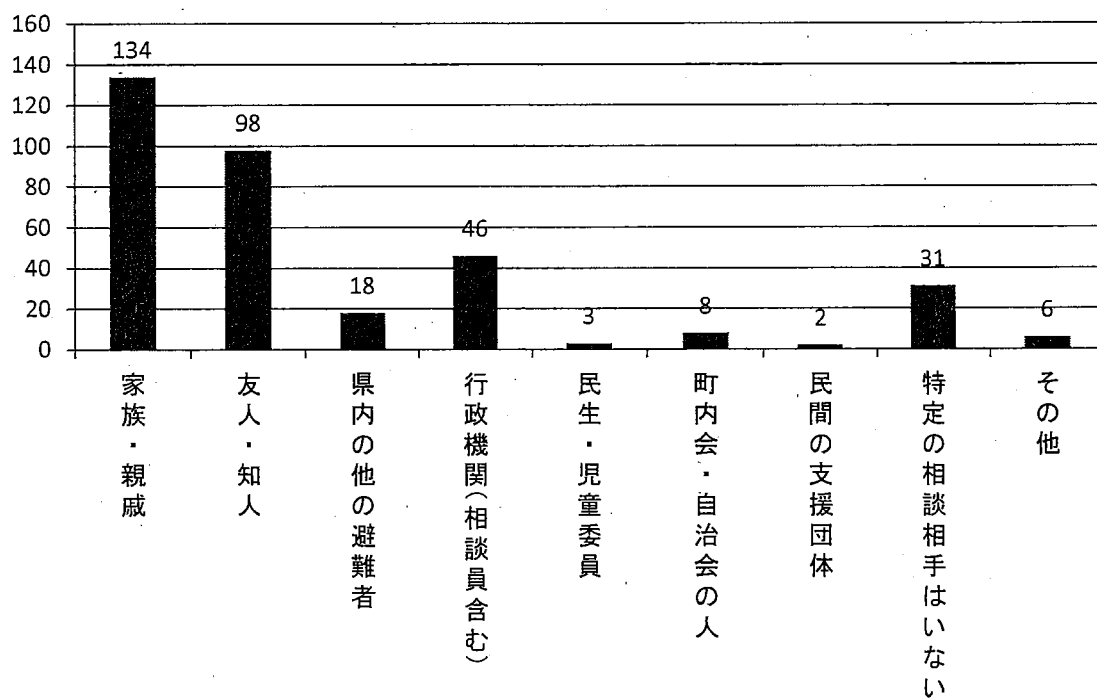
		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	被災地との関係を保つため	31	14.1%	1	9	21	0
②	あくまで一時的な避難だから	35	15.9%	1	5	29	0
③	住民票を異動すると不利益がある、又はあるかもしれないから	45	20.5%	1	4	40	0
④	特に理由はない	18	8.2%	0	5	13	0
⑤	その他	19	8.6%	1	5	13	0

【7】 秋田県に避難してきた理由(Q2:複数回答可)



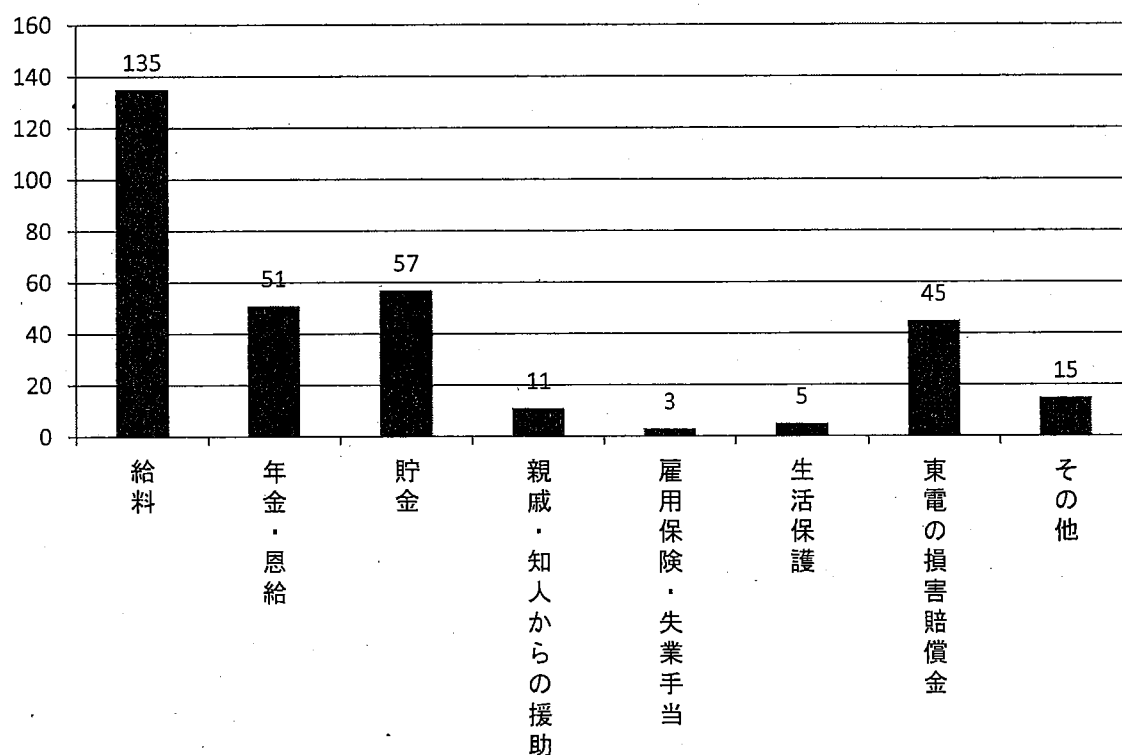
				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	親類や知人がいる	142	64.5%	7	35	100	0
②	自分や家族が以前に住んだことがある	44	20.0%	1	10	33	0
③	会社の関係	23	10.5%	2	9	12	0
④	子どもの学校の関係	10	4.5%	1	3	6	0
⑤	行政や地域からの支援への期待	12	5.5%	1	3	8	0
⑥	被災地に近い	10	4.5%	0	1	9	0
⑦	地震や津波などの災害が少ない	35	15.9%	1	9	25	0
⑧	放射能汚染の心配がない	81	36.8%	1	5	75	0
⑨	特になし	5	2.3%	0	2	3	0
⑩	その他	8	3.6%	0	2	6	0

【8】 秋田県内での相談相手(Q3:複数回答可)



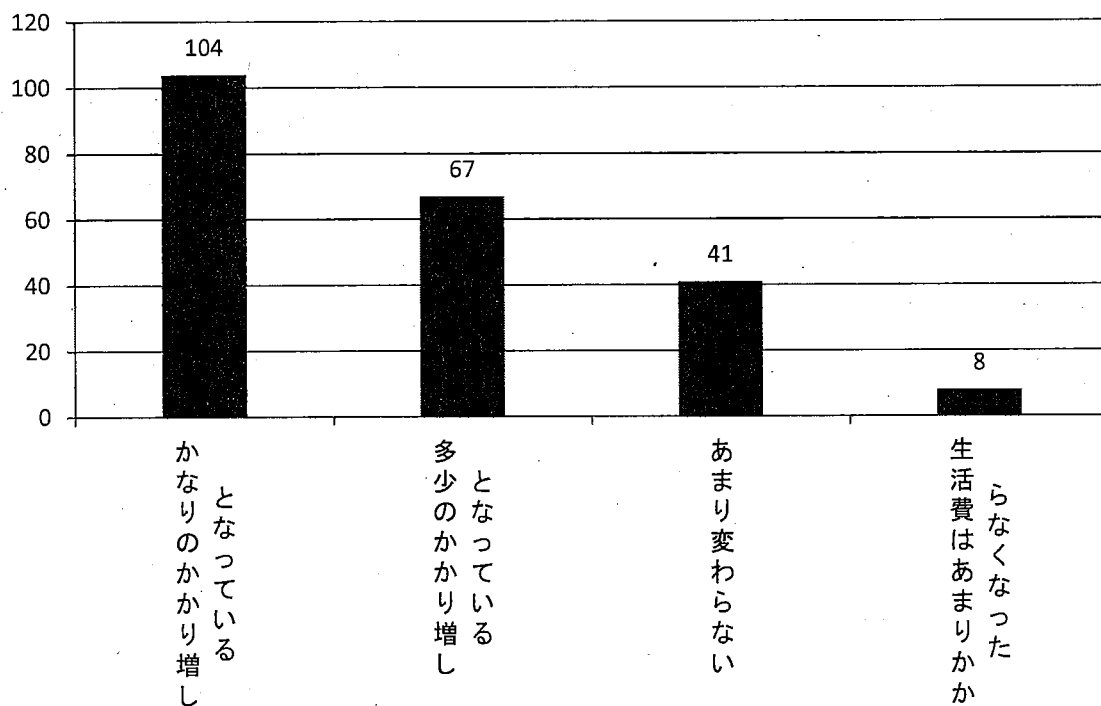
				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	家族・親戚	134	60.9%	8	32	94	0
②	友人・知人	98	44.5%	3	21	74	0
③	県内の他の避難者	18	8.2%	1	2	15	0
④	行政機関(相談員含む)	46	20.9%	2	11	33	0
⑤	民生・児童委員	3	1.4%	0	1	2	0
⑥	町内会・自治会の人	8	3.6%	0	3	5	0
⑦	民間の支援団体	2	0.9%	0	0	2	0
⑧	特定の相談相手はいない	31	14.1%	0	9	22	0
⑨	その他	6	2.7%	0	2	4	0

【9】 主な生活資金(Q4:複数回答可)



		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	給料	135	61.4%	3	26	106	0
②	年金・恩給	51	23.2%	5	20	26	0
③	貯金	57	25.9%	1	9	47	0
④	親戚・知人からの援助	11	5.0%	0	4	7	0
⑤	雇用保険・失業手当	3	1.4%	0	1	2	0
⑥	生活保護	5	2.3%	0	3	2	0
⑦	東電の損害賠償金	45	20.5%	0	0	45	0
⑧	その他	15	6.8%	2	3	10	0

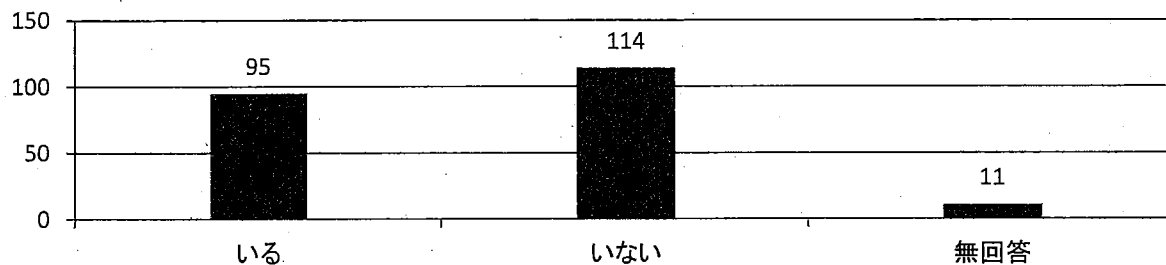
【10】生活費の変化(Q5)



				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	かなりのかかり増し となっている	104	47.3%	5	18	81	0
②	多少のかかり増し となっている	67	30.5%	1	16	50	0
③	あまり変わらない	41	18.6%	3	14	24	0
④	生活費はあまりかか らなくなった	8	3.6%	0	2	6	0
	合計	220		9	50	161	0

				内 訳	
		件数	割合	子育て世帯	成人世帯
①	かなりのかかり増し となっている	104	47.3%	68	36
②	多少のかかり増し となっている	67	30.5%	43	24
③	あまり変わらない	41	18.6%	21	20
④	生活費はあまりかか らなくなった	8	3.6%	3	5
	合計	220		135	85

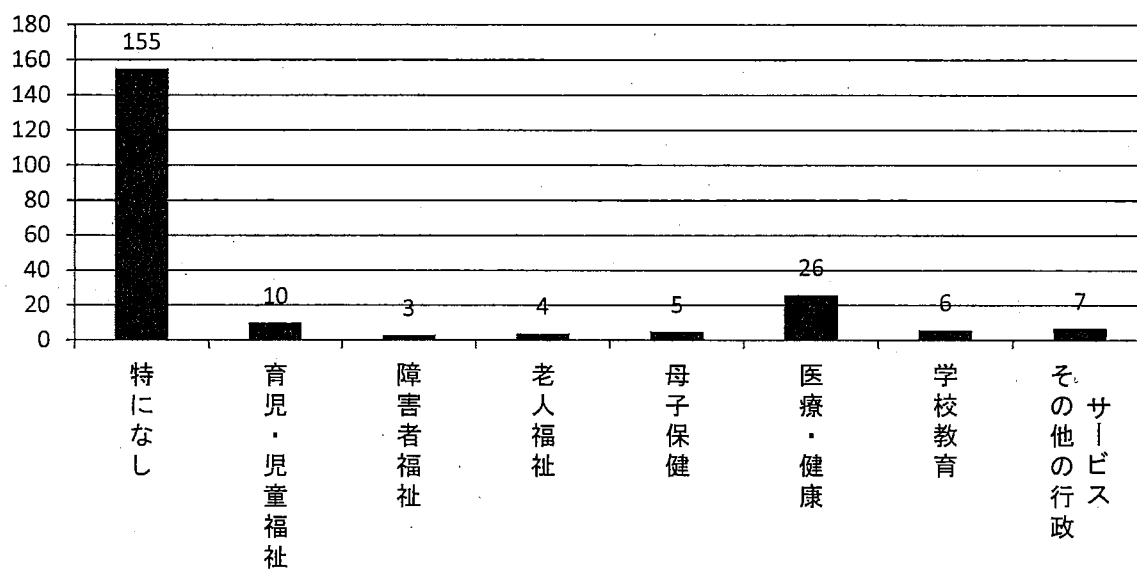
【11】 現在、同居の家族の中で、秋田県内に避難してから、「眠れない」「集中力の低下」「イライラする」といった精神面の不調や「体がだるい」「めまいや頭痛」といった身体の不調を訴えるようになった方はいらっしゃいますか（Q6）。



		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	いる	95	43.2%	4	22	69	0
②	いない	114	51.8%	4	22	88	0
③	無回答	11	5.0%	1	6	4	0
	合計	220		9	50	161	0

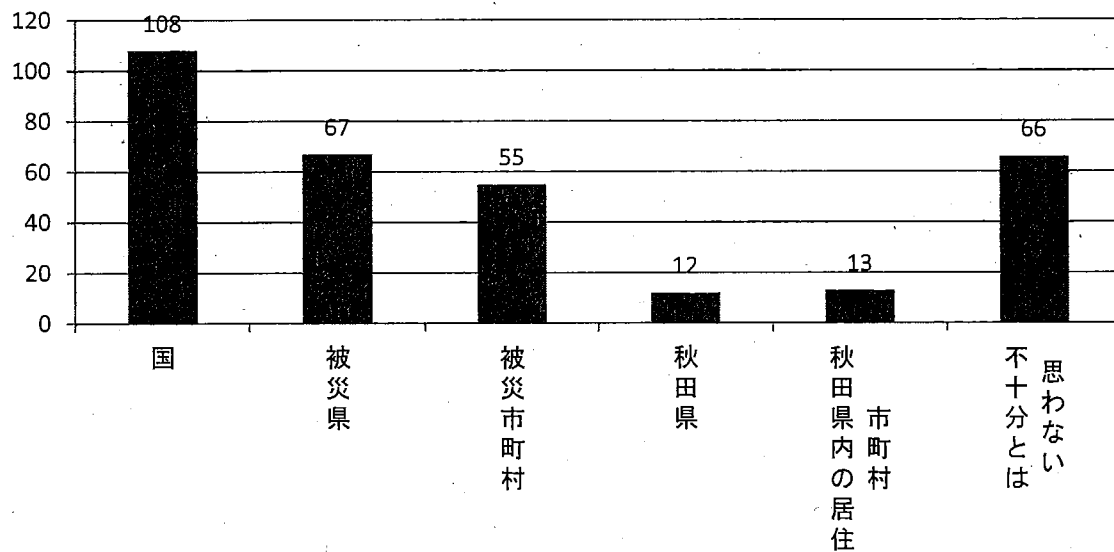
		内 訳			
		件数	割合	子育て世帯	成人世帯
①	いる	95	43.2%	53	42
②	いない	114	51.8%	77	37
③	無回答	11	5.0%	4	7
	合計	220		134	86

【12】現在居住している市町村から提供される行政サービスで、不便を感じる分野について、お願いします。(Q7:複数回答可)



				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	特になし	155	70.5%	6	33	116	0
②	育児・児童福祉	10	4.5%	0	1	9	0
③	障害者福祉	3	1.4%	0	1	2	0
④	老人福祉	4	1.8%	1	1	2	0
⑤	母子保健	5	2.3%	0	1	4	0
⑥	医療・健康	26	11.8%	1	4	21	0
⑦	学校教育	6	2.7%	0	1	5	0
⑧	その他の行政サービス	7	3.2%	0	4	3	0

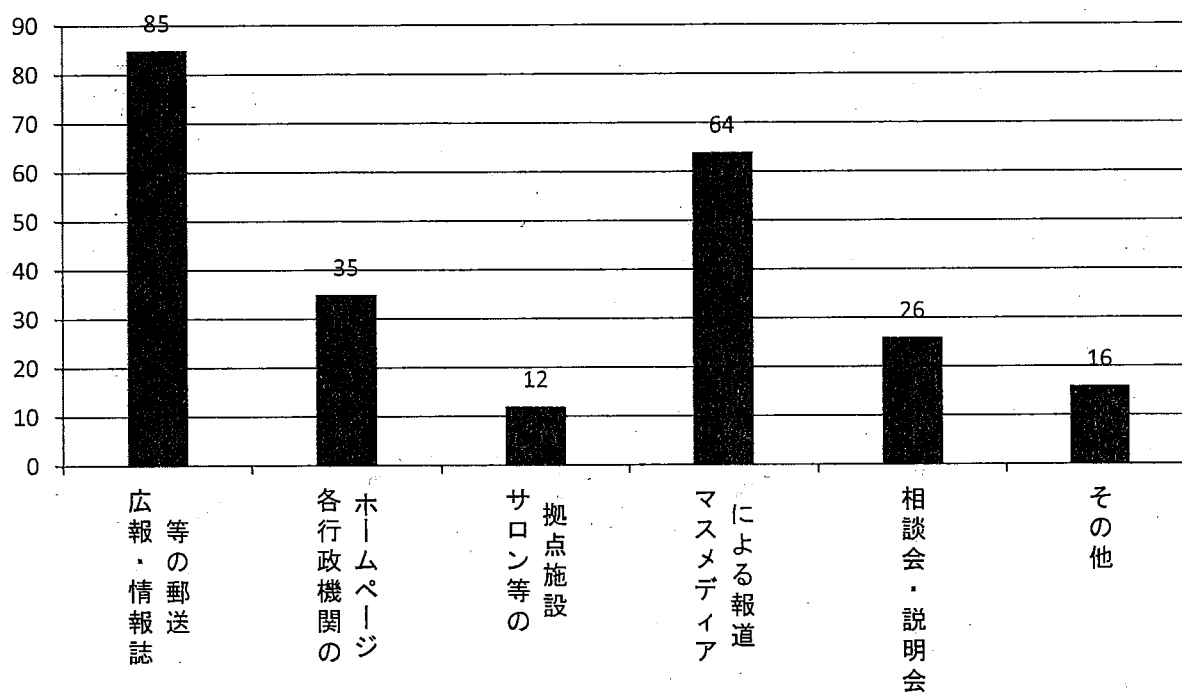
【13】 支援制度など生活再建に必要な関係情報の提供が不十分と思う行政機関をお答え願います。(Q8:複数回答可)



		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	国	108	49.1%	3	17	88	0
②	被災県	67	30.5%	4	10	53	0
③	被災市町村	55	25.0%	1	8	46	0
④	秋田県	12	5.5%	0	2	10	0
⑤	秋田県内の居住市町村	13	5.9%	0	2	11	0
⑥	不十分とは思わない	66	30.0%	3	23	40	0

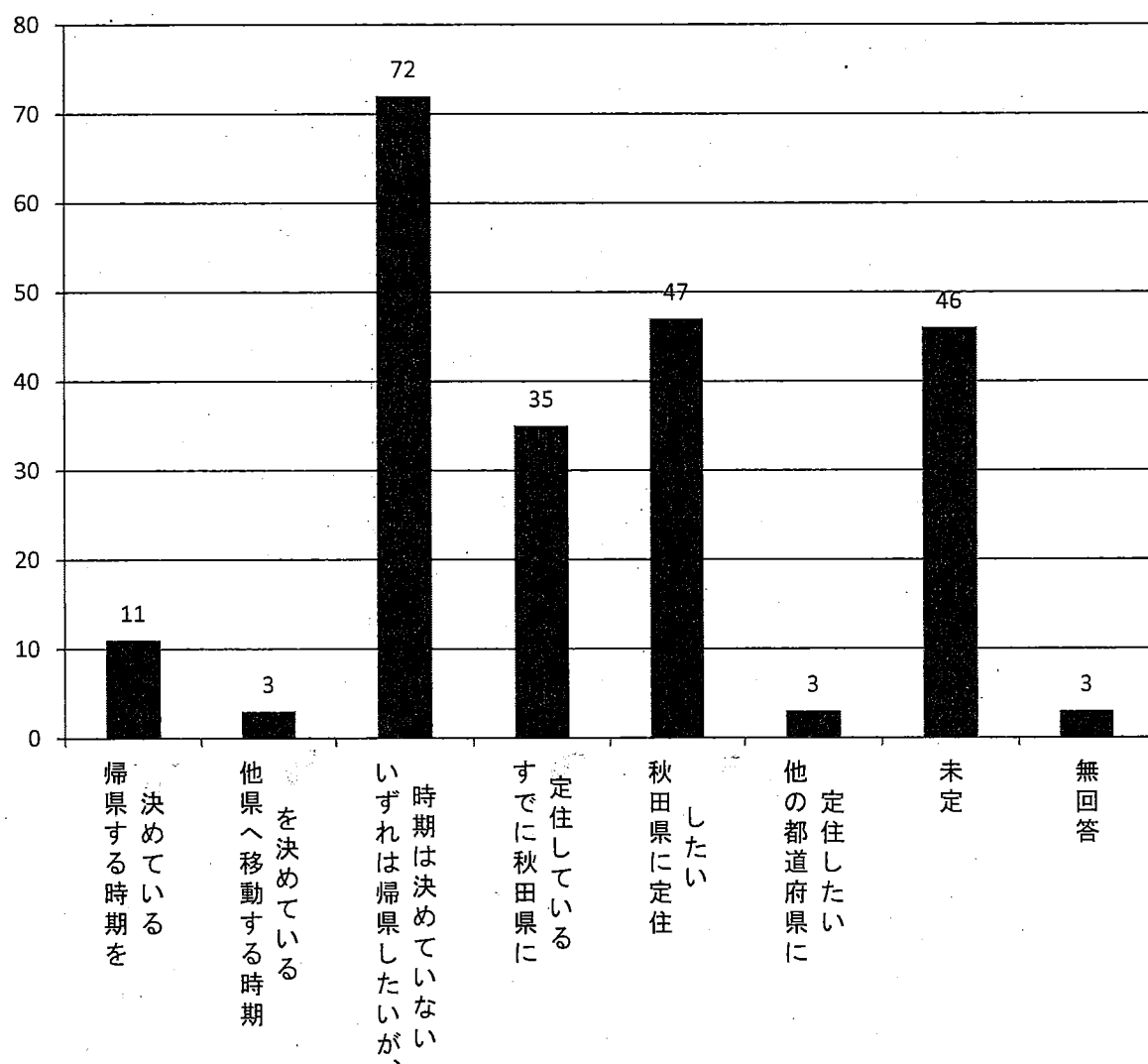
		内 訳			
		件数	割合	子育て世帯	成人世帯
①	国	108	49.1%	67	41
②	被災県	67	30.5%	42	25
③	被災市町村	55	25.0%	37	18
④	秋田県	12	5.5%	6	6
⑤	秋田県内の居住市町村	13	5.9%	8	5
⑥	不十分とは思わない	66	30.0%	38	28

【14】 行政機関等からの情報提供の手段として、もっと充実してほしいものをお答え願います。(Q9:複数回答可)



				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	広報・情報誌等の郵送	85	38.6%	3	16	66	0
②	各行政機関のホームページ	35	15.9%	1	7	27	0
③	サロン等の拠点施設	12	5.5%	0	4	8	0
④	マスメディアによる報道	64	29.1%	3	8	53	0
⑤	相談会・説明会	26	11.8%	1	3	22	0
⑥	その他	16	7.3%	0	5	11	0

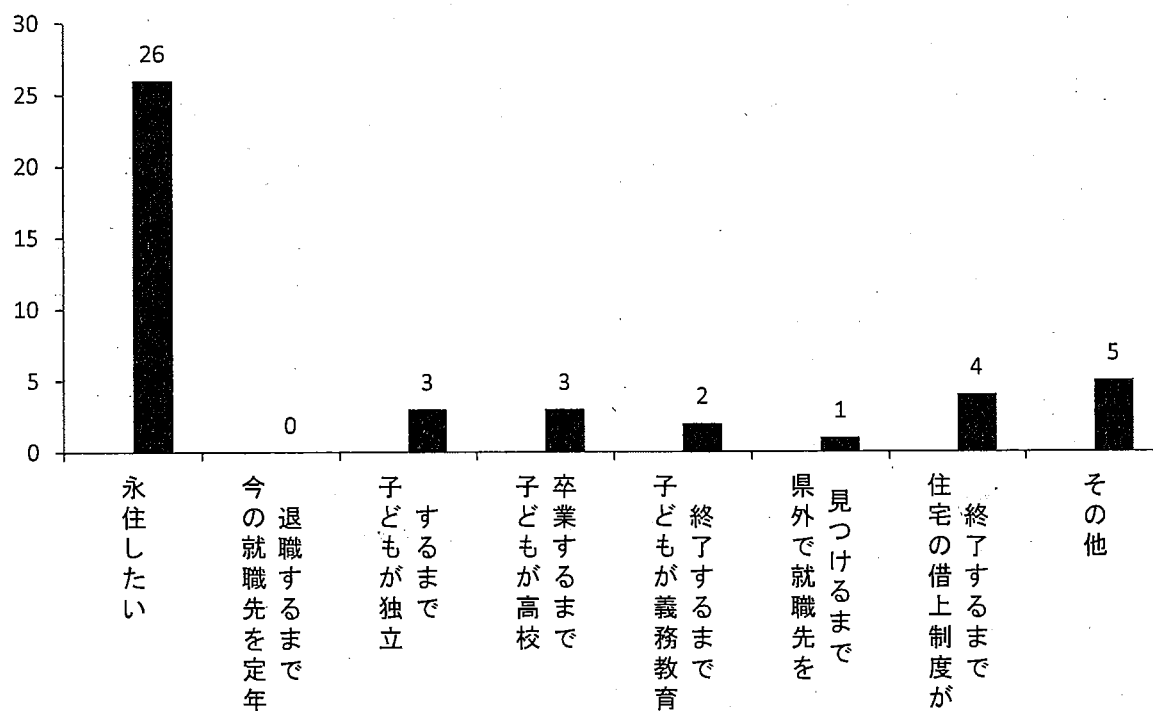
【15】 今後の予定について、お答え願います(Q13)。



				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	帰県する時期を決めている	11	5.0%	0	3	8	0
②	他県へ移動する時期を決めている	3	1.4%	0	0	3	0
③	いずれは帰県したいが、時期は決めていない	72	32.7%	3	12	56	0
④	すでに秋田県に定住している	35	15.9%	3	11	21	0
⑤	秋田県に定住したい	47	21.4%	2	13	32	0
⑥	他の都道府県に定住したい	3	1.4%	0	0	3	0
⑦	未定	46	20.9%	1	10	35	0
⑧	無回答	3	1.4%	0	1	2	0
	合計	220		9	50	160	0

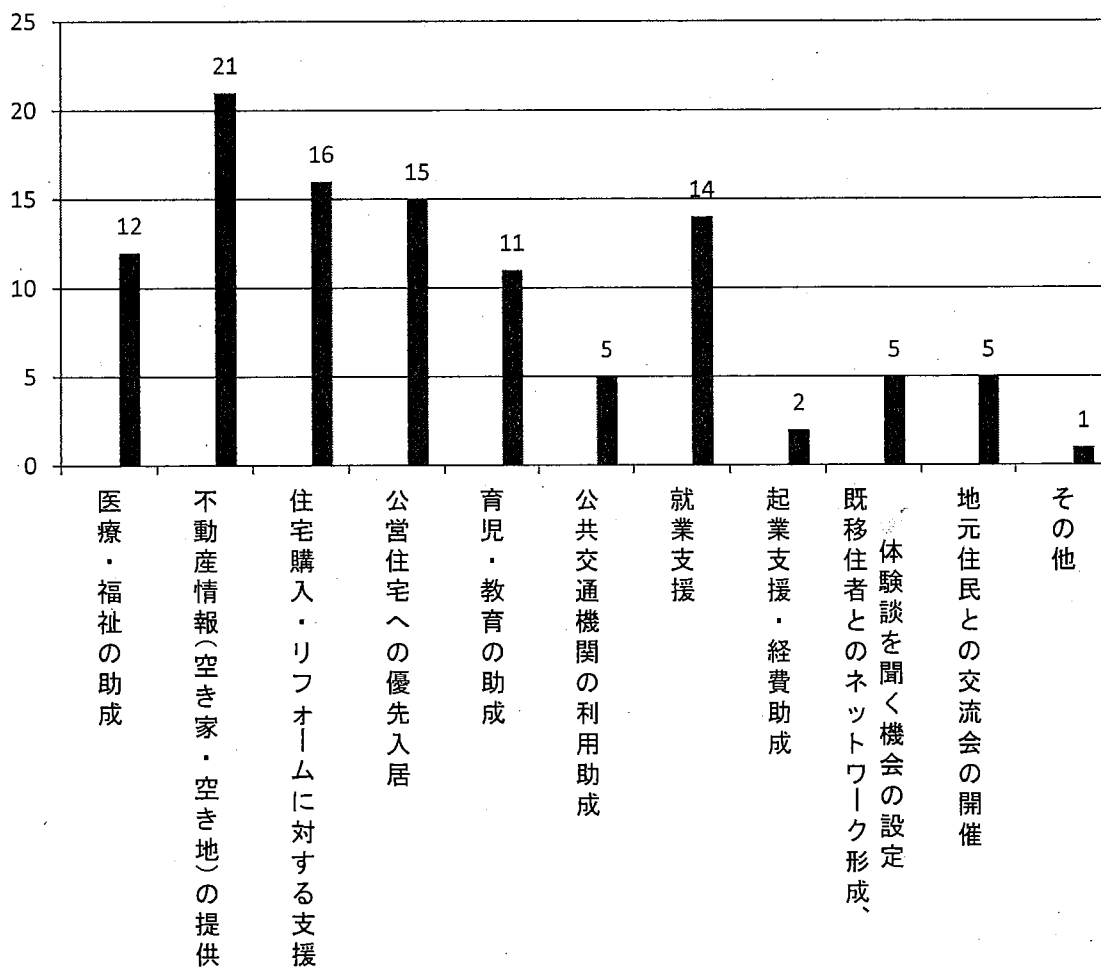
				内 訳	
		件数	割合	子育て世帯	成人世帯
①	帰県する時期を決めている	11	5.0%	10	1
②	他県へ移動する時期を決めている	3	1.4%	3	0
③	いずれは帰県したいが、時期は決めていない	72	32.7%	39	33
④	すでに秋田県に定住している	35	15.9%	23	12
⑤	秋田県内に定住したい	47	21.4%	28	19
⑥	他の都道府県に定住したい	3	1.4%	1	2
⑦	未定	46	20.9%	29	17
⑧	無回答	3	1.4%	1	2
	合計	220		134	86

【16】「Q13」で「⑤秋田県に定住したい・定住を決めている」方に伺います。どの程度の期間を想定しているのかお答え願います。(Q13-1)



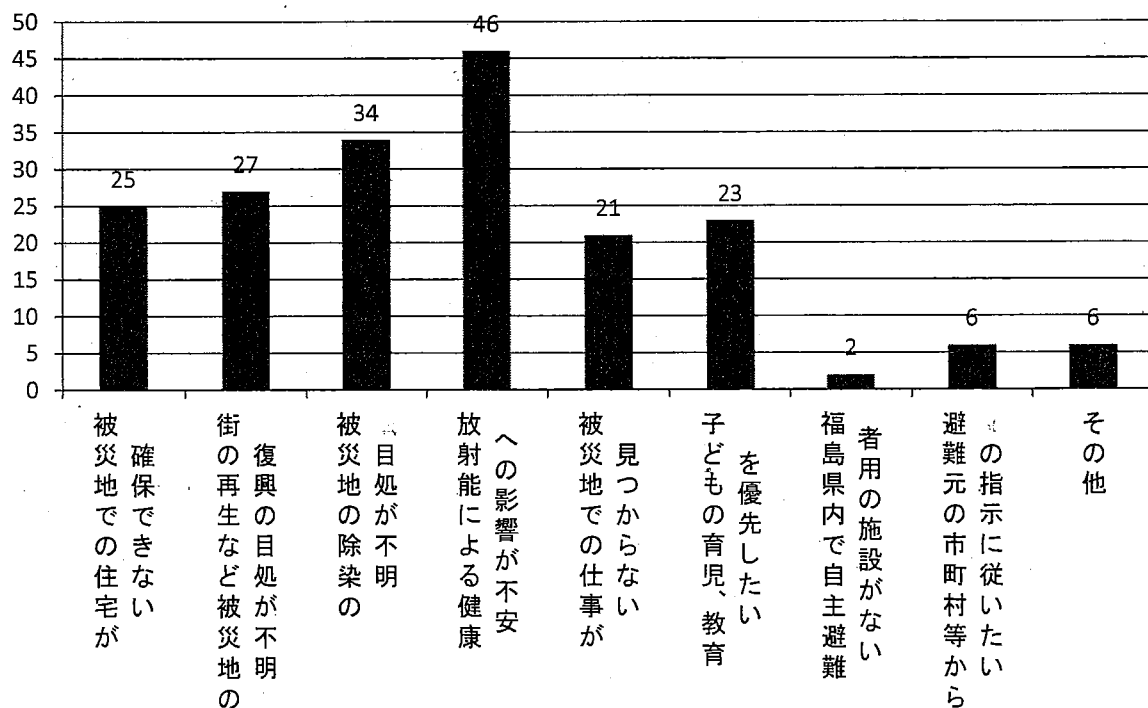
				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	永住したい	26	55.3%	1	7	18	0
②	今の就職先を定年退職するまで	0	0.0%	0	0	0	0
③	子どもが独立するまで	3	6.4%	0	1	2	0
④	子どもが高校卒業するまで	3	6.4%	0	0	3	0
⑤	子どもが義務教育終了するまで	2	4.3%	0	0	2	0
⑥	県外で就職先を見つけるまで	1	2.1%	0	0	1	0
⑦	住宅の借上制度が終了するまで	4	8.5%	0	3	1	0
⑧	その他	5	10.6%	1	1	3	0

【17】「Q13」で「⑤秋田県に定住したい・定住を決めている」方に伺います定住を考えるにあたり、どのような支援を望むかお答え願います。(Q13-2: 複数回答可)



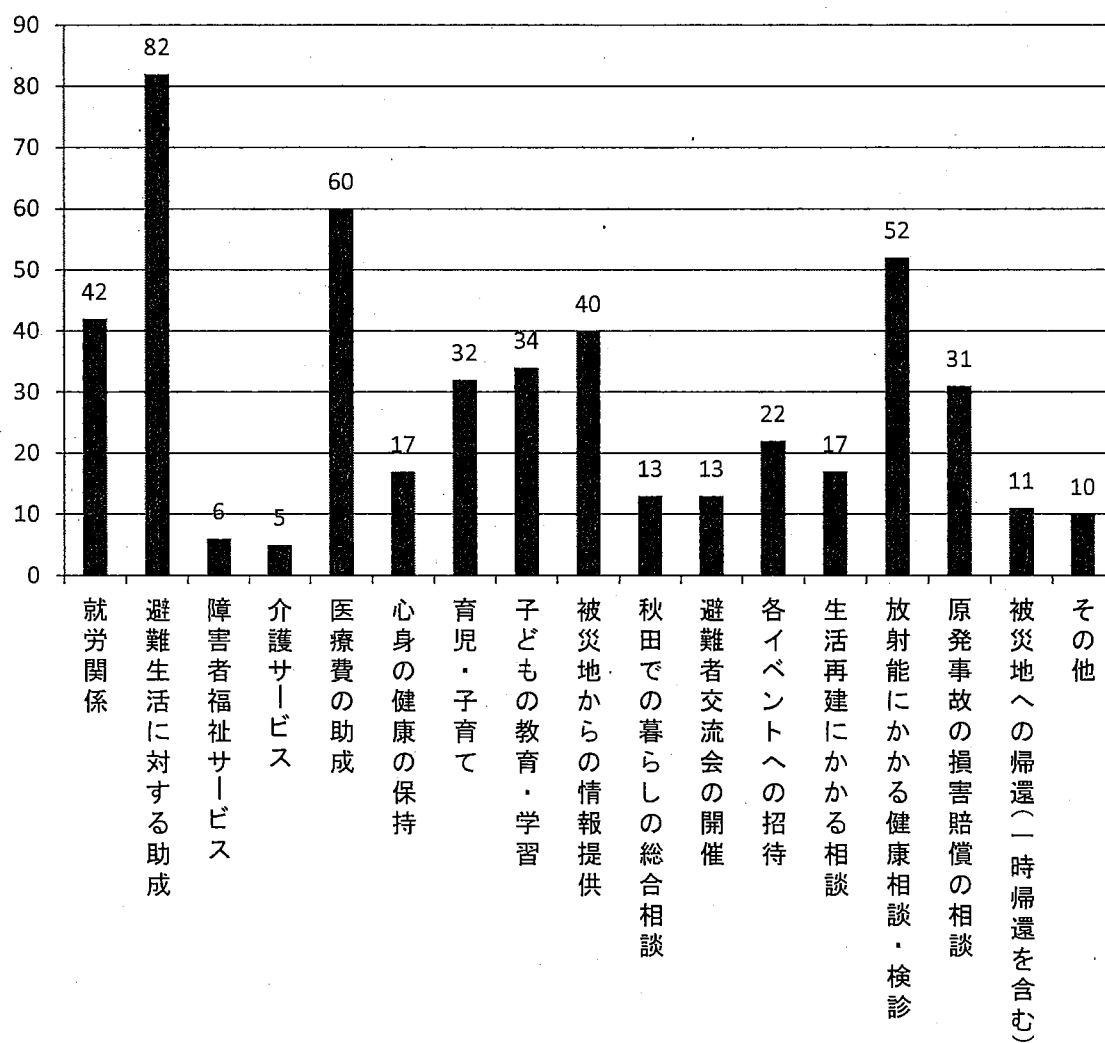
				内 訳			
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	医療・福祉の助成	12	25.5%	1	3	8	0
②	不動産情報(空き家・空き地)の提供	21	44.7%	2	5	14	0
③	住宅購入・リフォームに対する支援	16	34.0%	0	4	12	0
④	公営住宅への優先入居	15	31.9%	1	5	9	0
⑤	育児・教育の助成	11	23.4%	0	0	11	0
⑥	公共交通機関の利用助成	5	10.6%	1	0	5	0
⑦	就業支援	14	29.8%	2	2	10	0
⑧	起業支援・経費助成	2	4.3%	0	1	1	0
⑨	既移住者とのネットワーク形成、体験談を聞く機会の設定	5	10.6%	1	2	2	0
⑩	地元住民との交流会の開催	5	10.6%	0	2	3	0
⑪	その他	1	2.1%	0	0	1	0

【18】「Q13」で「③いずれは帰県したいが、時期を決めていない」方に伺います。決められない主な理由をお願いします。(Q14:複数回答可)



		内 訳					
		件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他
①	被災地での住宅が確保できない	25	34.7%	3	9	13	0
②	街の再生など被災地の復興の目処が不明	27	37.5%	1	3	23	0
③	被災地の除染の目処が不明	34	47.2%	0	0	34	0
④	放射能による健康への影響が不安	46	63.9%	0	1	45	0
⑤	被災地での仕事が見つからない	21	29.2%	0	3	18	0
⑥	子どもの育児、教育を優先したい	23	31.9%	1	1	21	0
⑦	福島県内で自主避難者用の施設がない	2	2.8%	0	0	2	0
⑧	避難元の市町村等からの指示に従いたい	6	8.3%	0	2	4	0
⑨	その他	6	8.3%	0	2	4	0

【19】 今、必要としている支援について、下の事項から4つ以内で選択してください(Q15)。



		件数	割合	内 訳			
				岩手県	宮城県	福島県	その他
①	就労関係	42	19.1%	2	7	33	0
②	避難生活に対する助成	82	37.3%	2	17	63	0
③	障害者福祉サービス	6	2.7%	1	3	2	0
④	介護サービス	5	2.3%	1	1	3	0
⑤	医療費の助成	60	27.3%	4	16	40	0
⑥	心身の健康の保持	17	7.7%	0	4	13	0
⑦	育児・子育て	32	14.5%	1	6	25	0
⑧	子どもの教育・学習	34	15.5%	0	4	30	0
⑨	被災地からの情報提供	40	18.2%	4	5	31	0
⑩	秋田での暮らしの総合相談	13	5.9%	0	5	8	0
⑪	避難者交流会の開催	13	5.9%	2	3	8	0
⑫	各イベントへの招待	22	10.0%	2	2	18	0
⑬	生活再建にかかる相談	17	7.7%	1	4	12	0
⑭	放射能にかかる健康相談・検診	52	23.6%	0	1	51	0
⑮	原発事故の損害賠償の相談	31	14.1%	0	0	31	0
⑯	被災地への帰還（一時帰還を含む）	11	5.0%	0	1	10	0
⑰	その他	10	4.5%	0	3	7	0

		件数	割合	内 訳	
				子育て世帯	成人世帯
①	就労関係	42	19.1%	28	14
②	避難生活に対する助成	82	37.3%	55	27
③	障害者福祉サービス	6	2.7%	2	4
④	介護サービス	5	2.3%	1	4
⑤	医療費の助成	60	27.3%	42	18
⑥	心身の健康の保持	17	7.7%	9	8
⑦	育児・子育て	32	14.5%	31	1
⑧	子どもの教育・学習	34	15.5%	31	3
⑨	被災地からの情報提供	40	18.2%	23	17
⑩	秋田での暮らしの総合相談	13	5.9%	9	4
⑪	避難者交流会の開催	13	5.9%	3	10
⑫	リフレッシュ事業への招待	22	10.0%	14	8
⑬	生活再建にかかる相談	17	7.7%	9	8
⑭	放射能にかかる健康相談・検診	52	23.6%	44	8
⑮	原発事故の損害賠償の相談	31	14.1%	22	9
⑯	被災地への帰還（一時帰還を含む）	11	5.0%	5	6
⑰	その他	10	4.5%	8	2

Ⅲ 自由記述：主なもの

【１】避難先自治体に対する要望

県内避難者アンケート(避難先自治体に対する要望)

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
岩手県	・借上住宅の支援のおかげで、生活が成り立っています。今後も継続をお願いします。
	・秋田で仕事をして生活していきたい。 ・訓練をして住んでいる近くで仕事をしていきたい。 ・一般的手のきく仕事ができるのか。 ・職業訓練ができるのか。 ・県の借上住宅の期間終了後どのようにしていくのか。
宮城県	・由利本荘市では、一昨年3月末で避難者支援室が閉鎖され、市役所内の危機管理課が担当しているが、相談や問い合わせがしにくくなった。又、サロン等が無い為、避難者同士の交流が出来ないので、週一回又は月一回でも交流する場が必要では。
	・被災者支援の気が感じられない。問い合わせに電話や窓口に向うと担当者別に温度差を感じる。他人事で取り扱われる。
	・高齢になっているので現在住んでいる所を終の棲家にしたい。
	・支援相談員の訪問を受けており個別に要望・相談しております。
	・保育園の支援センターを夏季の期間だけでも午後利用出来るようにしてもらえとありがたいです。ファミサポは遠く、足の運びが悪くなりま す。 ・被災地の情報が足りない。(新聞などでも) ・おとし、大館市に避難・転居してきてからこれまで、秋田県や大館市の職員の方々にほんとにも良くしていただき大変感謝いたしております。 現在の住居についても不備や不満はありません。今後よろしく願っています。 ・鹿角市には相談する場所がない為相談する場所の設置を要望する。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
	・とにかく除雪をしつかりやらしてもらいたい。通勤・通学が大変です。 ・就職しても(長男)給料が安い(介護関係の仕事)。 ・お互い「思いやり」を大切に、協力していきたいですよ!! ・特にありません。充分お世話になっています。
宮城県	・大仙市に住んでいますが、当初から本当に良くして頂き感謝しております。来年3月で住居を退居しなくてはならないので、公営住宅への優先入居の相談など・・・あれば助かります。 ・子供の医療費が家計に大きくのしかかっている。他の市町村では小学校在学中までは医療費免除などの措置があるのに対して秋田市の医療は何のサービスもないのであると大変なところがある。 ・震災後に避難したのは母子のみでした。そして昨年10月に父親の転勤により同居となりました。これまで十分に御世話になりましたのでその機会に避難者登録を抹消して頂くことも考えました。ですが、仙台市の情報等が入手できることもあり、大仙市の担当者のお声がけに甘えさせていただいております。様々なイベントの案内を頂く度に氣にかけている方々がいらっしゃると思っております。いつもありがとうございます。 ・72才になりますけどまだ就労が希望です。働く所がないですね。年金では食べるのでいっぱいです。
福島県	・自主避難者への援助。指定区域内の方と同様に毎月10万/1人補助、医療、保険の免除等、同様に扱いにしてほしい。同じ圏内での差がコミュニケーションを崩している。 ・秋田県に対してはとても感謝しております。スマイル通信も楽しみに読んでおりますので、ぜひ続けてください。 ・医療費を(震災後大幅増のため)助けてくれるとうれしい。 ・子どもの心と学習の支援。 ・借上住宅の打ち切りがいつになるのか常に不安がつきまといまいます。支援がなければ(なくなれば)どうしたらよいのか。 ・秋田県に避難している者全員の医療費免除を行っていただければありがたいです。二重生活で家計が苦しいからです。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
福島県	・避難者(被災という現実)に対する温度差(被災地とそうでない地)を、時が経つにつれ広がっていることを感じる。特に自治体の姿勢は形式的に今まで行っていると感じられ、残念です。長期に渡る避難生活の問題点はこれからですし、多岐に渡るのではないかと懸念されるところです。きめ細やかな支援を要望します。
	・今までいろいろな支援をしていただき感謝している。あたたかく迎えてくれてありがとうございます。
	・内部被曝や、甲状腺ガンの検査のたびに福島に戻らなくてはいけません。子供の学校もあるので秋田でもできるようにして欲しいです。
	・今後の予定は未定だが、借上住宅の期間延長があとだいぶ助かります。被災地の現状を知りたいのでメディア(TVや新聞)を通じて情報提供して欲しい。
	・雪がすごくて細かい情報が欲しかった。(降雪の時期、タイヤ換えの時期)もう慣れましたが、受け入れてもらえな情報がないと他の人は住民票の異動は難しいと思う(税金も高くなるし30km圏内なら)。
	・震災で家族と2年間単身赴任をしたが、今後の子供のことを考え退職し、秋田で転職しました。給料の面で大いぶ下がってしまい、借上民間住宅終了後の生活が不安です。住宅購入にしても審査、資金の面で現段階で不可能のことでした。今後支援していただけるようお願いします。
	・秋田県での仕事が少なく生活が困難。賃金が安いうえに待遇が悪すぎ。雪かきがとても大変なので助成して欲しい。寒いので灯油代が毎年生活苦になっている。
	・避難してきて、転職しましたが、すぐ仕事を探さなければならず、この先の事を考えると、仕事を変えようかまよっている。生活があるので、休んで職安に行くひまがない。こんな仕事があるというお知らせがあればいい。
	・能代市ですが、子どもを外で遊ばせようと考えるとき、公園の遊具が充実していきづまらないです。ボンポコ山、たかのす道の駅は楽しいが、能代はない。エナジウムパークは電力さんのであるし、もう少し(すべり台、ブランコのみでなく)かわった遊具のある公園があったらうれしいです。
	・活気ある県に！お互いががんばりましょう！ ・日頃から手厚く支援をしていただき、とても感謝しております。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。
	・大変あたたかい支援をいただきとても感謝いたしております。心より御礼申し上げます。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
福島県	・学校給食に汚染地の食品を使わないで下さい。 ・ガレキの受け入れをやめてください。
	・借上住宅の期間の無制限。または、期間終了後、県営や市営住宅へ優先的に入れるようにして頂けると助かる。借上住宅の住み替えができればありがたいです。
	・借上住宅の住み替えを可能にして欲しい。
	・1年9ヶ月秋田県に住むようになり、だいぶ慣れてきました。子供も小学校で元気に通学できるようになりました。でも子供はずっと秋田に住んでいたいと言っています。私は福島に帰りたい気持ちがあります。早く福島全体が除染してくれればと思います。
	・雪が降った際の道路状況がひどかった。
	・秋田県庁被災者受入チームの皆さんには本当に良くして頂き又、秋田県民の皆さんにも大変お世話になっています。ありがとうございます。まず、がれきを受け入れたこと、非常に遺憾です。今後予定があるならばだちにやめて頂きたい。給食及び食材の徹底した検査をして頂きたい。秋田も、湯沢、横手は汚染されているはず。私は来春秋田を出るが、残った避難者を守る、残った避難者を洗うのをやめてほしい。東北六魂祭とか言ってる場合じゃない。
	・自由に過ごさせて載っていることに感謝しています。
	・戻ってからの子供の学校での人間関係や生活全般について不安があります。もし福島に戻ってみてやはり危険であると思った時、もう自主避難の受け入れ先が無いと思うと無理をしてもこのまま秋田に居続けるしかないという結論になり今日に至ります。本当は3ヶ月なり半年なり一度福島に戻って生活をしてみてから秋田に戻るか福島に残るかを決めることができた方がいいのですが。
	・来年度以後も就学援助を続けて下さい。よろしく願います。
	・居住している市町村により支援の差があるように思う。借上賃貸料、就学支援など助成していただきたき大変助かっています。放射能にかかる検診は県内でやっていたいただけの所がなく、まだ受けることが出来ずにいます。(一番近くて青森)
	・借上民間住宅の期間終了後の住宅に強い不安を感じています。移住者対策として安価な賃貸住宅の提供や土地取得に対する補助金など秋田県に残りたいと考えている人に対する助成を前向きに検討いただきたい。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
福島県	・あたたかく支援していただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また今後も末永いご支援をどうぞよろしくお願いいたします。
	・大館市でホールボディカウンター受けれるようにしてほしい。イベントの招待や交流会は秋田市が中心なので遠くて何も参加できない。もつと大館市とか近くで(車で30分以内)あると参加できるし、避難者同士の意見交換もできるのに。
	・借上住宅の期間延長をお願いしたい。
	・特にありません。子どもの就学助成など、とても助かります。ありがとうございます。
	・大変お世話になっております。ご丁寧な対応をいただきまして、とても感謝しています。
	・路線バスのかくぐだい、R285ガスセンターから比内まで。
	・いつもありがとうございます。
	・現在、生活するために昨年就職したが、もっと就職情報や生活するための助成情報があるとよかった。
	・住む場所が決まらないから落ち着かない。帰っても今までの住居に住めるのかネズミ等のふん害等で住むのも不安になってきた。(住むのは難しいと思う)。除染に多額な費用かけてもしょうがないと思う(山・山林)。それだったら補償に少しでも回してもらいたい。住むところが決まれば気持ちも落ち着くと思う。
	・小さい子供がいるので、子供の検診など被災地に戻れば出来る案内が届く。だが、今はこちらで生活があるので、検診のためだけに500km近く移動するのは大変。ぜひ、秋田で検診をして欲しい。(具体的には甲状腺の検査)
	・借上住宅の引っ越しができると良いです。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
福島県	・支援相談員の方が(今の方では無く以前の方ですが)個人情報その他の避難者の方に話したり、噂話のような事を話されとても気分を害しました。また情報提供も平等ではなく仲良しの人だけに情報提供したりと言うことがあったようです。
	・いつもありがとうございます。今後もよろしくお願い致します。
	・色々とおくしてもらっているので満足しています。
	・特に情報がない。今いる市町村よりも県からの連絡で分かる話(情報)で、市町村からは何の連絡もこない。市よりも県に何かあったら相談するようになりました。
	・秋田県に避難して2年3ヶ月になろうとしています。本当に色々とお助けいただいていることに毎日感謝しております。ありがとうございます。
	・避難生活に対する助成をして欲しい。
	・避難元自治体で県外避難者に対しての支援は難しいと思うので避難先自治体に支援していただくのがよいと思います。
	・現在どのような支援があるのか分からない。
	・住宅購入に対しての支援策をスピード感を持ってやってもらいたい。支援策が決まる前に住宅を購入した場合でもさかのぼって対象となるように避難者の立場に立った柔軟な対応をお願いします。
	・長期間の支援をお願いします。
	・原発事故後、数ヶ月お世話になるつもりで身一つで秋田に来ました。結局帰る事も叶わず今に至っております。秋田で良かったと言っているのが本音です。人が温かい。物価が安い、温泉がいい。雪が困る。決して甘えず、ご迷惑をかけないよう暮らして行きますのでこれからもよろしくお願ひ申し上げます。
	・秋田県や、避難先の市には、いろいろ支援していただいていたただただ有難いと思っています。
	・大変お世話になっております。
	・十分して頂いております。

被災県	Q16 避難先の自治体に対する要望
福島県	・税金が高いので困っている。
	・「秋田県へ」…要望は特にありませんが、被災者へのケアがいきとどいて(交流会等)大変感謝しています。個人的にはなかなか皆さんと会う機会がないのでこのような会があることで色々お話できて情報が入ります。支援室の皆さんも休日出勤になる時もあり大変ですが、いつも親身にお世話下さりありがとうございます。
	・「大仙市へ」…交流サロンや各種イベント等案内ありがとうございます。冬の雪かきが大変でした。市で一度雪かき実施して頂きましたが、もう少し回数を増やしていただければと思います。
	・秋田県の除雪作業をもう少しこまめにしたい。
	・現在住んでいる町で何か支援制度があるか一切聞いたことがない。
	・「民間借上」の期間を延長して頂きたいです。
	・いつも感謝しています。
	・継続して就業できる環境を強く望みます。
	・町内会長さん、近所の方がみなとてもやさしく接してくれるので、とてもありがたいです。
	・小さな子供がいるので、長期にわたる借上住宅の支援をお願いしたいと思います。秋田県内と福島県との放射能汚染に対する知識に温度差を非常に感じる。原発問題は日本の問題なので、秋田県内でも、知識をひろげるべきだと思いますが…
	・秋田市で勤務しているが借上住宅の家賃補助がなければ暮らしていけない賃金です。家賃の補助はとても助かっております。できればこのままお願いしたいです。また、子どもの勉強ができる施設が増えてくれれば助かります。 ・週2回秋田大学の学生さんが教えてくれますが、曜日や時間の都合上行けない時が多々あります。他の曜日や時間に教えてくれる方がいれば助かります。勝手なお願いで申し訳ありませんがどうしても塾に入れられず困っています。

Q16 避難先の自治体に対する要望

被災県	・人口を万人単位で増やせる好機なので、安心な環境、教育レベルの高さなど積極的にPRするべきだと思う。しがらみ、既存概念を打ち破り行動しないと何も変えられないです。 ・今の住宅は来年の3月で支援が終了と聞いてますが、福島状況も落ち着かないので支援の延長をお願いしたいです。他に住居を探す事も大変ですが、援助が切られる事が心配です。 ・大変よくしていただきありがとうございます。 ・相談員の方の定期的な訪問は必要ないとおもいます。(相談員の方には申し訳ないですが)訪問の頻度が多いような気がします…相談員訪問が必要な方がそうでない方が判断されたほうがよいかと思います。来ていただいても特に相談も話すこともなく…ではこちらも心苦しいので ・子どもの遊び場や公園、イベントなどホームページ等でもっと分かりやすく情報提供してもらえと嬉しい。他にも病院や美容院などの情報がホームページに集約されていると大変助かります。 ・今住んでいる借上住宅が漏水工事修理後、床下がずっと水たまりになっている状態です。不動産屋も大家も善処してくださったのですが、問題は根本的に解決してないです。借上住宅のため、引っ越すことが困難ですが、なんとか考えてもらえと有り難いです。 ・大変よくしてもらっています。 ・昨年度までの保育料助成は大変助かりました。ありがとうございます。また、定期的な情報提供の郵送もありがたいと感謝しております。今年度からパート先の時間を増やして頂き昨年度よりも若干の収入増となりました。ただ、収入増となった分が全て保育料に充てられ生活自体は安定しないままの状態が続いております。正職員への希望もありますが、夜勤が絶対条件となり、現状の収入以上は望めない状況です。もし要望としてお願いできるなら、保育料の免除をご検討頂きたいです。
-----	---

福島県

【2】国に対する要望

県内避難者アンケート(国に対する要望)

被災県	Q17 国に対する要望
岩手県	・住宅の支援を継続して欲しいです。(借上住宅の継続ができるように) ・住宅の被災状況に応じた、被災者生活再建支援金が提示されているが、増額できないでしょうか。
宮城県	・避難先の方から「募金や寄付金は皆さんの所にどのような形で届いているのか」とよく聞かれます。私達の所にはほとんど支給は無いですが、どのように使われているのか、国民の皆さんに発表して欲しい。 ・福島県のみ高速道路無料化を改善して頂きたい。 ・被災地の情報を流す。 ・放射能の情報をしっかりと伝えるべき。 ・湯沢市の放射能が高いという情報(宮城県の人が人から聞いたこと、新聞に載っていたと言っていました)があるが新聞では正常範囲を示されている。きちんとした情報を提供すべき。(正確な情報) ・被災者ではありますが、身体障害者としての要望です。ここに記すべきでない場合はご容赦願います。医療費(眼科にかかる費用)が障害者になってからも障害者認定前と負担割合が同じです。できれば軽減していただきたいと思っています。 ・宮城県に在中している人と、県外に異動している人の補助の落差があるので、一定化して欲しい。 ・震災から2年2ヶ月が過ぎ、母子と父は離れて生活している。二重生活での生活費の負担や子供達に会うための交通費などの負担が多い。早く家が建てられる土地等日途も立たず不安である。 ・他の住居に移っても家賃の保証して欲しい。鹿角市では仕事がない。

被災県	Q17 国に対する要望
宮城県	・被災地に関係のない予算が使われているのを知って腹が立つ。我が身になってほしい。ばらまいた金を元に戻してやり直してほしい。
	・被災地の土地の買い上げを早くして下さい。二年経っても生活できる様になったが精神面ではまだ不安定です。早く普通の生活に戻りたい。
	・原発の現状、放射性物質の処理など国民の生活に直結するものの情報は全て正確に公表してもらわないと困る。
	・精神的、肉体的そして経済的にお困りの方の支援を望みます。
	・自治体職員の方々は被災地のみならず避難者を受け入れられている、職員を出向させている等精神的な負担を強いれていると思います。事業支援と平行してご配慮いただきたいと思います。
	・避難生活に助成金を支援してほしい。
福島県	・年金が少ないので生活が成り立たない。
	・借上住宅延長。
	・賠償は国が主導で行ってほしい。
	・自主避難者に対しての助成。
	・同校に通う子供達(福島県内)の保護者は双葉から避難していて、助成を確実に受けている為、上から目線で話しかけてくるので腹立たしい。自主避難は補助金や医療の補助もないと言われた。殺意を感じた！こっちは必死に生活しているのに貯金を崩して子供を守るために避難し、生活を送っている。双葉は福島市へ避難しながら援助金をもらっている。→(おかしい)福島市に住んでいる人は同等ではない。
	・自主避難者に対する支援を。(高速の無料化を延長して欲しいです)
	・もうつかれた。書いても、希望と反対のことばかりやってくれるので…期待もしていません。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・損害賠償を全ての避難者を対象にしてほしい。除染しても、線量がが落ちなかった縁側だけでも実損として賠償して欲しい。 ・高速道路無料区間の変更を至急、早急にやって欲しい。
	・区域編成されて10キロ圏内の自宅が居住制限区域に認定されましたが、震災以来、壊れたままの状態、朽ち果ててしまって、今、現在でもとても住める状態ではありません。ましてや、数年後に帰れと言われても困ります。新しい土地で再スタートできるよう、国や東電で買ってもらえないと、前にすすめません。誠意ある対応をお願いします。
	・一年に一回、支援金をだしていただくとか、医療費免除があれば、体調不良時にはすぐ病院に行くことができます。
	・この震災を食いものにする者がいる報道が見られます。また、国の内部にもいる状況はただちに改め、取り締りの強化、制度改正を、行っしてほしい
	・国が何をやっているのかわからない。進展が感じられない。もっと早くなんとかならないのか？
	・福島県にばかり負の遺産をおしつけないで下さい。東京は責任を負うべき。
	・交通費、新幹線の利用についても助成して欲しいです。 ・こまちが福島でも乗り降りできるようにして欲しいです。 ・借上制度延長して欲しいです。
	・とにかく除染を進めてほしい。主人のところに一度行ったらアパートの前が除染の仮置場になっていました。子供連れでは戻れません。仮置場が必要なる事も分かりますが、早く進めて安心して生活できるようにして欲しい。
	・帰省する度に料金がかかるので高速道路の無料化の延長をして欲しい。
	・子供の検診、保障をもっと確実にして欲しい。
	・生活に慣れるには精神的にまだまだ時間が掛かります。家は税金より何より家族(子供)への負担を優先しました。それでも納得できない気がします。なぜ秋田にいるのかわからない時も。終わったわけではない事を忘れないで欲しい。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・もう一度家族がいっしょに住めるよう家を求めたい。購入の支援をして欲しい。消費税のことも。 ・賠償がなくては前に進めないで早くなんとかして欲しい。 ・早く落ちついた自分の生活をしてみたい。 ・原発はこわい！いらない！ ・高速道路の無料について・・・自主的避難の場合でも母子や父子家庭で避難されている方については無償化が始まったようですが、単身による自主的避難者についても支援して欲しいと思っています。 ・自主的避難者への賠償について・・・昨年、(8万円と4万円)2回の賠償金をいただきましたが、生活費がかかり増しになっていたりする部分があるのが現状です。避難にかかった費用も多くあります。自主的な避難ではありますが、金銭面での支援を必要としています。 ・双葉郡の玄関口広野町に商業施設や総合病院、子供の為に室内公園などの環境と整え、それから帰還を呼びかけるべきではないでしょうか。安全とは言えない場所に帰らざるをえない方々をもっと優遇すべきだと思います。それが今が今ならない国の責任だと思います。 ・食品の基準をきびしくして下さい。 ・うそをつくのをやめて下さい。 ・本当に大丈夫なのか心配です。福島除染が全て終わることを願っています。一番子供のことが心配なので。 ・震災から2年が経過しても、事態はいっこうに改善に向けて進行していない。情報の隠蔽、対応のおそまつ、どれを一つとってもまるで何事もなかったかのように復興復興と、もういいかげんにしてほしい。まずは汚染を認め除染など無理な事を認めてほしい。その上で移住を希望する人には充分な対応を。原発事故被災者救済法案が可決されたのだから予算を早くつけて早く対応するべき。国民だと思っているのか不思議でたまらない。1分でも1秒でも早く汚染地から人を助け出して欲しい。避難区域の拡大を切に希望する。しかるべき補償を。 ・本当の事を言って下さい。 ・震災以来いわき在住の母を東京に避難させ、毎月1回会いに行っているが、交通費が大変かかり(毎回3万円)夫の年金だけではなかなか厳しいものです。震災前(いわき一福島)間の時は月に2～3回会いに行けましたが経済的に経費がかかりすぎです。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・国の方針でやっている原発の事故なのに復旧があまりにも遅すぎる。避難生活に慣れてしまいました。今から帰って壊れた家を片付けて生活し直すのが面倒になりました。年齢も若くなく通院している状態です。家を直しても元の様に大きな声で孫達に遊びに遊びに来いとも言えない。いっそうのこと国で買い取ってもらいたいと思っています。 ・賠償金が少なくて家の購入ができない。制度の見直しを望む。 ・福島県内の小中学校においては地産地消をやめて西日本の食品を扱い、内部被曝のリスクを軽減させてほしいです。せめてお弁当を持参する自由を与えてほしいです。文科からの指導がなければ県としても動きようが無い状態なので、国→文科→県教委として弁当持参の権利を認めてほしいです。 ・高速道路の母子無料化について、主人は福島で仕事しています。週末2日しか休みがなく高速道路を使用し来てくれますが、車に乗っている時間のほうが長くゆっくりに家族で過ごせない。しかも会えるのは2ヶ月に1度。新幹線を無料にしてくれたらもっと長く過ごせるのに。また会う機会も増えるのに。そうして下さい！ ・低線量被曝の危険性を認め、国民に避難をする選択肢を与えて欲しい。 ・今、現在も被曝をしている子供の疎開等の被曝を避ける政策をとって欲しい。 ・夫は避難先で、母子避難先で、と二重生活であるが、現在はいろいろな助成を受けなんとか暮らしている。原因となった原発についてもっと深く考えて欲しい。再稼働、輸出などありえないと思う。 ・自主避難者に対しての対応が全くといっていいほどない。あくまでも勝手に避難した人といった扱いである。国の原発政策の被害者と認識頂きたい。放射能と余震により体調を崩し、家も仕事もコミュニティも捨てて出てきて新たな生活を再建しようとしているにもかかわらずそういった人間に対する援助が全く無いのは冷たすぎると思います。 ・小高区の除染と瓦礫の撤去早くして欲しい。 ・いつまでも「希望」という名のニンジンでへびの生殺し状態で居させないで帰環がムリならムリと言って下さい！ ・避難したのはいいが、避難後の生活基盤の立て直しに時間と費用がかかった。そのため、考えることが増え精神的に疲れた。 ・福島をはじめ、避難している人は一度の引越だけでは終わらず、何度も引越越える人もいるはず。その人達の健康診断の案内や検診の案内がちゃんと届くよう、何か住所変更の追跡方法を確定してほしい。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・避難生活に対する助成。
	・原発事故の手当みたいな物が少なすぎる。母子避難者だけでなく単身避難者も高速無料化にしてほしい。
	・高速無料化を来年3月と言わず長期間やってほしいです。
	・本来の意味で福島復興を考えてほしい。特に子供の事については、もっと考えてほしい。放射能の検査も血液検査等も入るべき除染も子供の通学路は早く行ってほしい。一番心配なのは学校給食の事。国の基準で大丈夫(基準値が高い)何年間は福島産や近県の食材は使えないでほしい。その分農家の方々、漁業の方々への補償は国(東電)でするべき。
	・一日も早く解決してもらいたい。ニュースとか見ていると色々大変な事が次から次と出て大変だと思いますが、一日も早く!!
	・なにもしてくれない。
	原発事故の損害賠償を子供の為に他県に避難している人達の賠償継続してもらいたい。地元にいる人、戻った人、避難している人の子供に対する考え方は、それぞれ違うけど原発事故前より放射能の数字は高いので、きちんとしてほしい。 ・国に対して、私たち大人も、子供達も、不信感だらけです…子供が国を信用出来なくなったらこれから世の中どうなるのか…子供達にそうさせたのも結局、国です…安心、安全…信用出来なくなりました。国も政治家の人達もとにかくウソばかり…大人がウソつきで子供に対して「ウソをついてだめだよ…」なんて言える立場ではない。情けなく感じる。 ・私はこれから年金だけの生活をする様に避難している人に原発事故の生涯賠償をしてもらいたいです。そうしてもらわないと生活できません。 ・帰県後の生活再建への助成をして欲しい。 ・自宅は第一原発から約4kmの場所にあります。2年3ヶ月になる今はあれ程帰りがかった故郷も捨てる覚悟をしました。朽ち果てていく我が家を見続ける勇気があります。ムダな除染はしないで前の沢へ押しやり、土をかぶせ中間貯蔵地にして下さい。最終処分地になろうとも、大熊町は受け入れなければならぬと考えます。共存共栄をしながら「万一爆発が起きたら町民は皆一緒にのたれ死にするんだよ」と同僚と話した事を思い出し、書かせて頂きました。生活再建のやめにも、福島の復興のためにも国の一刻も早い決断を望みます。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・自主避難者を切り捨てるような考え方だけはして欲しくないと思います。
	・中間施設などはやく決める手段をして欲しい。
	・帰って来るようにと……そのような方向の話がありますが、住めるように除染して欲しい。
	・何を言っても、何を要望しても何もしてくれない国、政府には期待しません。所詮、人ごとなんですよ。
	・意味のない除染をして費用を使うぐらいなら福島から住民を避難させる方へ費用を使って欲しい。除染しただけでは戻るつもりは一切ない。
	・除染のスピードアップ。
	・2年以上経っても帰還できない人達に対する国の支援が見えてこない。高速道路の無料化、集合住宅問題などそれぞれの事情をもっとくみ取って対応すべき。被災者が諦めてくるのを待っているかのような最近の姿勢です。
	・大まかな方針でも良いので、今後福島県の除染計画など住民や避難者へ広報して欲しい。また、2年過ぎたら今の現状・除染の経過や成果などをより詳しく聞きたい。
	・借上民間住宅の今後の予定期間を更に延長。 ・医療費免除除期間の延長。 ・高速道路無料措置の延長。 ・財物賠償については被災者が生活再建をし易く今後の生活に希望を持てように被災者に寄り添った賠償額になるように国が主導して欲しい。
	・借上期間 賃貸住宅の期間延長をもう少しして欲しい。 ・秋田県～いわき市(地元)に帰る時(一時帰宅)の時の高速無料か割引をきかせて欲しい。
	・中途半端な除染はやめるべき。やるなら徹底的に線量が下がるまでやってもらいたい。出来ないのなら説明して欲しい。 ・年間1ミリシーベルトを越える地域にはチェルノブイリと同じように「避難の権利」を与え、望む人には移転の支援をして欲しい。 ・子ども被災者支援法を一刻も早く成立させて欲しい。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・情報を正確にして欲しいです。
	・除染を早期に実施し以前の町での生活が可能になることを願っている。
	・大本営発表を止め「真実」を公表すべき。
	・やる気なし。
	・被災地の仮設住宅で暮らしている方々への支援をもっと多くした方がいいと思う。
	・除染のあり方を見直して欲しい。いまだ原発から放射能物質が出続けているのに除染作業に多額のお金を使うのはどう考えても無駄。やるなら完全に収束してからなのでは？チェルノブイリから何も学んでいない。
	・母子避難に対する、高速道路無料化、ありがとうございました。期間を、来年までとせず、避難している間は無期限として下さい。二重生活ももうじき2年目に入ります。子供の将来のため貯金が出来ません。高速道路無料化の他にも何か対策ありませんか？
	・2011. 3. 11から原発事故により初期被爆をした福島県民、その時福島にいた方、また放射能汚染のひどい他県の方々の一生にわたる健康にかかわる追跡調査、福島県から他県へ住民票を移した子供をふくめる人々の追跡調査と、他県のどこで病院にかかって受診料の無料化(特に子供2011. 3. 11に20才未満だった子供達を優先に)。子供の健康を考え、福島の子供の未来はありえないだろう。
	・借上住宅の期限を10年延ばして欲しい。子供の成長に応じて引越しても認めてほしい。長期間の体線量で、人体にどんな影響を及ぼすかちゃんと調査して欲しい。テレビで、ほとんどの研究が敬遠していると言っていて、何もやっていない状態と言っていたので。自主避難者に対しても、精神損害賠償を毎月支払ってもらえるよう東電に働きかけて欲しい。
	・避難区域で仕切ることなく自主避難を認めて欲しいです。どうして福島というだけで他の地域の子どもたちより放射能の危険にさらされなければならぬのでしょうか。危険がないという根拠がないのに言い切って自主避難の帰還を促すような策略を止めて下さい。

被災県	Q17 国に対する要望
福島県	・今までの公害問題もそうだが、被害者軽視の姿勢を正すべきだ。企業の責任に逃げる政治家、国会のあり方が許せない。自分たちで作った憲法くらい守れ。加害者側がすべて有利になる仕組み作りはおかしい。安定する仕事をもらえない。臨時、緊急雇用は、1年から3年しか働けず、1度就職すると再度、臨時、緊急雇用の応募資格を失う。国・県の政策で大量の雇い止めを生み出している現状を改善するべきだ。放射能物質についても、正しい知識を周知するべきだ。誤解するように仕向け安心させるように誘導するのは間違っている。「自己都合で転居しているのではない」これを肝に銘じて欲しい。
	・もっと情報が欲しいですが、東電任せではなく国が全面に出てきて欲しいと思います。
	・TVで放射能汚染についてことごとく放送してほしい。食品の汚染等も。
	・チェルノブイリに相談する。原発事故をもっと重視化して頂き、また自主避難区域地区に対する生活資金の援助の正当化を強く求めます。いわき市では、子供の2/3が「のうぼう」が確認されています。子供達の子孫につながる重要な現実だと思います。親子さんたちの不安をとりのぞく、強い精神ケアを望みます。
	・被災県の地場産品を食べるようにアピールしたり、帰郷を促す前に、子どもや妊婦の安全を最優先に考えて欲しい。 ・隠蔽体質の徹底改善を。 ・福島～秋田間の電車代及び高速料金の無料化をお願いします。現在、酒田区間の高速料のみ有料なので改善してもらいたい。 ・借上住宅の期限を可能な限り延ばして欲しいです。
	・自主避難者について話合って欲しい。

【 3 】 避難元自治体に対する要望

県内避難者アンケート(避難元自治体に対する要望)

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
岩手県	・帰県してから、住宅の確保、支援があればよいと思う。
	・全国の皆様から寄せられた義援金、誠にありがとうございます。最初の義援金支給時は内訳が明示されていたが、次回より専用の通帳口座に入金になり、その内容はギエンギンと記されているだけです。岩手県で発行された[暮らしの安心ガイドブック]平成24年10月版4ページ④義援金の配分、箱館内の住家被害(生活の本拠としていた住宅が半壊以上の被害を受けた方)×支給額)〇全壊全焼(一戸あたり)162万円の受領記録が不明です。尚交付を受けられる方>世帯主、今後の配分金は義援金の内訳を明示して頂きたい。
	・これからも金石新聞を郵送をお願いしたい。 ・県で発行する、被災地情報を郵送してもらいたい。
	・福島県の方々は、借上住宅の期間が更に一年延長になったと発表されましたが、宮城、岩手県も延長していただきたい。
宮城県	・問い合わせでも「県が、、、」「国が、、、」等々責任の所在を別にし回答を得られない。復旧の方向が見えない。
	・放射能の情報をきちんと提供すると共に、もっと慎重になるべきだと思います。 ・井戸水には(水質検査OKの井戸水も)放射能は入っていないのか。子どもに飲ませているのか？ ・野菜もチェックして店に出しているのか？ ・ホットスポットはないのか？
	・家族がバラバラに生活するようになって2年。子供達も成長期(8才、4才、2才)で父親のいない(別居)の生活…早く家族一緒に生活できるよう、復興をがんばって欲しい。
	・月1で県や市の職員に訪問して欲しい。
	・親が仮設住宅に居るので近くに行きたいのですが、仮設が空いているにもかかわらず、優先順位とかで入れてくれないのが疑問。なので帰県と仕事を迷っている。

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
宮城県	・美郷町に避難している宮城県民は何人いるのか。出来れば集まれる場があれば嬉しいのです。町としての支援はありますか。
	・医療費の助成をしてほしい。(子供の医療費だけでも)
	・毎日大変でしょう。がんばって下さい。応援しています。私達も慣れない生活でがんばっています。
	・沿岸部の復興が早く進むことを望みます。
	・3.11直後は「いざという時には行政は何も機能しないと憤りを感じていました。振り返ると、全く情報が得られず避難所では全てが”先着順”で知人のいない私が必要以上に不安を募らせていただけたと省みています。確かに広報では、地震災害対策の記事が目立っていましたし、危機教育はされたのだと思います。今は本当に必要な所へ人々への支援を充実していただくことを望みます。
福島県	・あきらめているので特になし。
	・自主避難者に対しての助成金(生活費 2011年3月以降～)さかのぼってもらいたい。それか、双葉郡の人たちと同等の条件にしてほしい。福島県民は全てにおいて被害者であることを知ってほしい。
	・借上住宅の延長(仮設と同様に) ・子供の検診を早く行ってほしい。
	・もはや期待しません。がっかりしています。子どもをそんなに被ばくさせたいのですか？
	・子供の予防接種を避難先で無料で受けられるようにして欲しい。
	・就学援助費を捻出していただき、ありがたく思います。

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
福島県	・特に被災元市町村には期待しない。
	・東電への責任追求をひき続きがんばってほしい。ADRについての情報と請求をしっかりとお願いしたい。
	・戻るときの引っ越し費用を助成して欲しいです。
	・住民票を移動しても、医療費の助成をして欲しい。避難した人へは支援、助成して欲しい。
	・すべての面で対応が悪い。
	・除染の結果を知りたい。 ・住宅購入の支援をして欲しい。
	・う～ん、いろいろふくざつです・・・
	・健康面(検診など)について・・・内部被ばく検査など、現在福島県が行っている検査の情報が避難した人に届けられているのか不安があります。住民票も異動させているのに正確な情報が届いているのか心配です。
	・今まで以上に住みやすい町にするチャンスと考え、国に働きかけてほしいです。子供達の教育などに力を入れて学力低下する事のないよう専門分野の先生や運動教室を積極的に取り入れるように幼児から学生まで進めて欲しいです。
	・食品の基準を厳しくして下さい。 ・うそをつくのをやめて下さい。
	・福島の中央を人口が高いところを早く除染して欲しいです。1回除染したら終わりではなく、年に数回して欲しいです。
	・福島県の酷さには呆れかえる。市には何の希望も見いだせない。将来子供に何かあったら訴えてやる。としか言えません。

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
福島県	・遠くに避難しているので復旧の進行状況を大凡でいいので時々知らせて欲しい、帰還の準備もあるので。 ・広報やメディアを使って「何でもない」「大丈夫」と思い込ませる報道ばかりするのはやめていただきたいです。幼児や児童を利用してのイチゴ狩りやお祭り(外での)、田植えなど、見えていて腹立たしく思っています。どの程度影響があるかは不確定としても、放射性物質が有害であることは事実だし、それが空気や土や水を多少なりとも汚染された事も事実である以上、子供たちのためには、一番安全な形をとるのが自治体としてあたりまえの義務であると思います。 ・秋田県での避難者交流会等に誰も来ない(前回実施時)事例あり。少なくとも誰かは来て話すべきだと思う。 ・自主避難者は避難元の対応に耐えられずに逃げてきたのです。2年経っても避難元の状況に大きな変化はなく、原発からの放射能もれも国や東電の体質も変わっておりません。そんな中で避難元へ帰る意志は全くありません。人口減も農林水産業を主としての産業の減退も当然であると思います。お願いです。避難元へ帰らせるような事も食品を安易に生産することも止めて頂きたいです。福島県が消滅しても仕方ない。そのような事故が起きてしまったと認識し、自分達の利益を守るような政策は行わないで下さい。 ・震災瓦礫の仮置場を早く決めてほしい。2回目のごみ(家庭ごみ)出しの日を早く決めてほしい。片付けに行っても家の中にゴミを置くしかないので片付かない。庭も瓦礫の山だから。 ・地元に住む親類、知人の話を聞くと、除染が中途半端という意見が多いので、そこで今も暮らす子ども達のためにもきちんと実施されることを望みます。 ・避難者の数は多くて大変だと思うが、離れたところへ避難している人に対し、「〇月〇日に検診受けて下さい」と案内を出されても、無理な人が多いと思う。郵便代の無駄。避難先の都道府県で検診できるよう手配してほしい。 ・いわき市のアパートの空き無いい状況だと聞きます。県借上住宅が終了したときにいわき市へ戻る場合住むアパートがないと困るので何とかして欲しい。 ・住宅借り上げ制度を3年間よりも延長して欲しいです。 ・国への要望と同じです。特に学校給食については早急に対応して欲しい。 ・除染の進行状況や、空間放射線量の情報をもう少し知りたい。郡山市内のどこを除染して、どのくらい効果があったのか、その後の放射線量の推移などがはっきり分かれば、郡山への帰郷へも前向きになれる気がします。

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
福島県	・住所を異動した事で、国民健康保険料を支払うようになったので、住所を異動した事にちよつと後悔した時がありました。
	・今現在、私たちの他に県や市に何人ぐらい避難している方々がいるのか…仕事をしていると集会などには行けないので、そういった事も知りたい。
	・復興を早く進めて欲しい。
	・NHKの時論公論「将来への不安続く原発事故被災者」をみました。遠くへ避難してしまつた住民は情報も遠のきがちですが、不安な気持ちと同じです。損害賠償も済まない内に、3年の時効を迎える事も不安のひとつになりました。大熊町も浪江町のように一斉申し立てをする予定はあるのでしょうか。住民の不安を代弁して下さるよう、これからも早めに連絡を下さるようお願いを致します。
	・仮置場など決まらなくて除染が進まないのようですが、そこをなんとかして欲しい。
	・秋田県の方には大変お世話になっております。
	・自主避難し、住民票を異動させて頂いてしまつた子供も福島県と同様の医療費扱いして欲しい。
	・住宅ローン控除を延長して欲しい。
	・照会の電話をかけた時など、私は臨時で分からないとの返事があつた。分からない人が電話を取らなくても良いのに、と感じた。県外避難者に対してあまり配慮がないのは長期になってきたからなのか、人手不足なのか…
	・住民票を異動したことによって避難元からの情報が薄れたり放射能の検査等が対象でなくなるのではないかと心配。
	・避難生活がこの先長く被災者に対して住居について転居移動条件や住居面積(広さ)等の見直しをして被災者の精神的な生活が出来る環境を整えて欲しい。

被災県	Q18 避難元の自治体への要望
	・仕事(求人)少ない ・収入の割に出費が多い。 ・外に出て行く者を妨害したり、避難している人を帰還させるべきでない。 ・国や東京電力に対して主体性を持って積極的に意見を言うべき。 ・県が主体の健康調査は全く住民の信頼を得ていません。結果ありきのように感じます。都合の悪い情報もすべてつまびらかにし、健康管理はあらゆる予防の観点から進めて欲しい。 ・福島県民が県庁の存在意義を認められるようになることを願っています。 ・県民に興味が無く自己保身ばかりの知事は辞めるべき。 ・たくさんあります。除染して欲しい、これは1番です。 ・正確な情報を発信して欲しい。 ・広報など、送っていただいてありがとうございます。
福島県	・避難先の住所を登録しているにもかかわらず、予防接種や、ガラスバッチ配布(必要ない物がくるのはなぜ?)の手紙が、住民票の住所に届く。避難先まで、この連絡がくるまで、タイムロスがある。はっきり言って不便。広報はきちんと届くの、他の物はなぜ? ・地元を離れて暮らしていると放射能汚染は過去のものやもう安全なものという慣れは存在しません。除染も終わらない、またしても結局数値が上がる。地産地消を進める給食など考えられないことが沢山あります。まだ帰ることは出来ないと思っています。 ・子どもの医療費ですが、窓口負担無しか避難先への口座の償還払いを認めて下さい。子どもの具合が悪くてもお金がなくて病院に行けないことがあります。検討してください。 ・福島県に住民を囲い組むような政策ばかり考えるのはやめくれ。市自体が崩壊するのを躍起になるより、住民が自由に転居できるようにするべきだ。震災当時、受け入れてくれる場所がなく流浪して、そこから動けず福島県に帰郷させる選択肢しか用意していないのは遺憾だ。 ・特に強い要望はありませんが困った時にとても力になって頂いているので感謝しております。 ・安全アピールは必要ないです。無理矢理 お祭りやイベント開催して無駄なヒバクをさせないで欲しい理解出来ません。 ・被災県の地場産品を食べるようにアピールしたり、帰郷を促す前に、子どもや妊婦の安全を最優先に考えて欲しい。 ・隠蔽体質の徹底改善を。 ・福島～秋田間の電車代及び高速料金の無料化をお願いします。現在、酒田区間の高速料のみ有料なので改善してもらいたい。 ・今住んでいる借上住宅が漏水工事修理後、床下がずっと水たまりになっている状態です。不動産屋も大家も善処して下さったのですが、問題は根本的に解決してないです。借上住宅のため、引っ越すことが困難でしようが、なんとか考えてもらえると有り難いです。

【４】避難者支援に対する意見

県内避難者アンケート(避難者支援に関する意見)

被災県	Q19避難者支援に関する意見
岩手県	・広報の配布で、以前住んでいた地域の状況が分かり助かっています。ありがとうございます。 ・本当に良くいただいて感謝しています。 ・避難後に生活設計がなりたなくな大変です。医療費の助成も3月末で打ち切りとなりましたが、もう少し助成期間を延長していただきたい。 ・スポーツ観戦の被災者席を用意してますの広告をいただき、行ってみたら入場を断られた。残念でした。 ・秋田県に来てから、美容院、他の場所で耳にした何気ない会話から「被災者の人達って自分達だけが被災したみたいないな願っている人がいるよね」「今度〇〇に行ってみようと思う」「震災の後どうなっているか見に行こうと思う」「被災者ってずいぶんお金もらえんんでしょ? ! いいいなあ。おれも欲しいな」「もともと地元に住んでいる若い人達にも仕事無いんだからいきなり来た人達(被災者)にだってあるわけないよ!」等々自分に向けられた言葉ではないにせよ、傷つきます。おなかの中ではそんな風に考えているんだあって.. ・宮城県では水道を利用、秋田県では井戸水を利用など、他県と違ったことに対して、きちんとした情報を提供してもらいたいと思います。 ・1ヶ月に一回訪問があるが、今現在は仕事をしていないので相談できるが、就職すると難しくなると思う。 ・住宅の借上制度期間を出来るだけ延長して欲しいです。 ・落ち着くまで税金を棚上げして欲しい。 ・できれば支援をもう少し続けて下さい。
宮城県	

被災県	Q19避難者支援に関する意見
宮城県	・毎月1度相談員の方が訪問して下さいますが、今は仕事以外困っていることはないので、月1度ではなく数ヶ月に1度くらいの訪問でもこちらには構いません。
	・いつもあたたかく見守って頂きありがとうございます。
	・他の避難者の方に比べれば私は仙台南の自宅にはいつでも帰れる状態になっておりますが、身体上の理由で娘の嫁ぎ先である能代市にとどまっております。このような私にまでも丁寧に対応していただき大変感謝しております。
	・支援は十分すぎます。
	・大仙市では私の国保の減免をはじめお見舞いなど本当に御世話になり通してお礼は簡単にお伝えすることができかねます。仙台市では、入園が難しかった子どももこの4月から地元の子ども園へ通っています。多くの皆様からのご支援に個人レベルではありますが、少しずつ「恩返し」をしていきたいと思っています。
	・家族がバラバラに避難しているので一緒に生活をしたいと思っている。
福島県	・秋田はなんと言っても雪の多さです。毎日の雪投げにヘトヘトです。良いアイデアがあれば幸いです。
	・返答が遅くなり申し訳ありません。子供など学校を通して、地域、学校の方々に支えてもらっております。ありがとうございます
	・双葉郡との同等の条件。 ・自主避難者に対してもっと考えてほしい。福島県内でも避難区域の線引きをされて、みんな怒っている。コミュニティーの崩れ。金銭面では県民が格差が出てうらんでいる。
	・秋田の自然がとも子育てに最適です。この大自然を体験できるような(畑とか山登りとか)イベント情報があればと思います。
	・いろいろと言いたいこともありますが、様々な支援に感謝しております。

被災県	Q19避難者支援に関する意見
福島県	・避難者の生活も3年目に入り、精神的・肉体的・金銭的にも疲弊してきています。これからも多方面による支援を宜しくお願い致します。母子・父子避難者の高速料金無料化はありがたいです。
	・避難していることをだんだんと口にするのが怖いと感じている。賠償金をもらっているというだけで他人の視線が気になる。正当な権利だと思っているが、つらいと思うこともある。
	・今後の住宅の件が不透明なので不安あり。東電の補償の問題も山積み。国or町からの金銭的な対応の悪さ。
	・交流会を多くして欲しいが遠くでは参加できない。
	・いつもありがとうございます！
	・借上住宅の期限について・・・秋田県のホームページで入居の期限が平成27年3月31日までと決まったと拝見しました。最初の入居期間の2年間から1年間延長していただけて大変助かりましたが、福島県の除染の状況、放射線の数値をみても、もう少しの間、入居期間を延長していただけると助かります。
	・新幹線の割引があると大変助かります。
	・もっと子供の教育になることや、避難生活に対する助成をぐわしく教えていただきたいです。
	・2年が経ち、そろそろ疲れや病気や帰ってしまう人が目立つようになってきました。まずは福島を何とかしないと事が1つも前に進みません。秋田県として東北六県のしがらみにとらわれず、断固とした姿勢をとってほしいと強く願います。佐竹さんに私達の声が届いてるのかと思います。
	・放射能の検査が福島県外の人だと受診するまでもにあまりにも日数がかかりすぎです。例えばホールボディカウンターは、来月初めて受診でできることになったのですが、設備がないとはいえ、ひどすぎる。小さな子供がいる家庭としてはかなり不満です。これだけのひどい災害なので地域差の出るようなことをなくすようにして欲しい。
	・高速料金の無料化を実現して頂きありがとうございます。支援室で企画して下さるイベントに日程が合わずなかなか参加できないのを申し訳なく思っております。湯沢の稲庭町に佐藤養助の工場がありますよね。廻作りの体験とか工場見学があると聞き、行ってみたいのですが遠いです。十文字でサクランポ。稲庭町でうどん。はいかがでしょう。夏なら東成瀬でホテルも綺麗ですが夜は、、無理ですね。

被災県	Q19避難者支援に関する意見 ・何とか避難できましたが、収入は3分の1に減りました。貯金を切り崩しての生活が続いております。それでも住居費がかからないので何とか生活できています。自然も豊かで食べ物もおおいしく人情も厚い。そういった秋田に永住したいと考えています。生活再建の費用の捻出に苦勞しています。避難対象地区でもなく、母子避難でもない自分達は補償もほとんどなく、苦しい生活を強いられています。避難者がある程度平等に扱ってもらえるように事を期待しています。
福島県	・秋田県御中 ありがとうございます こうして秋田と福島(借上住宅)と2つの支援をうけさせて頂けて感謝です。 ・高速が無料になりましたが、結局 車で移動する時間がない主人は新幹線で日帰りでも多く、私が車で帰ることも出来ず困っています。仕方がないのかもしれないけど、子供達も月1でも会えたら喜ぶので何かいい案があればと思います。ワガママな意見ですみません。 ・私たち家族は今年3月まで山形に母子避難しておりました。その際に借上住宅を借りていたため、今回秋田に来てからは借上住宅を借りることができませんでした。(それ以前に去年の12月で借上住宅は借ることができなくなったのでしたね)福島には家を残り避難してきましての住宅ローン、自己都合の転勤のため給料も減額(役職手当がなくなり)しました。この中での家賃を支払っての生活は大変厳しい状況です。なんとか借上住宅を借りられるようお願いいたします。 ・福島から離れて生活していると、情報量は格段に少ない。避難者が調べやすいよう、県のホームページ等に、どんな情報をのせ、なおかつ調べやすいよう工夫してほしい。 ・借上住宅を出来るだけ長くしてほしい。借上の条件を自主避難で区切らず、被災者や国からの避難指示者と同じ条件で考えてほしい。 ・家庭の事情により、今借上住宅をしている所から引っ越しをしていますが、現住所から引っ越しをすると借上住宅に出来なくなるので困っています。 ・本当にありがとうございます…秋田県の皆様には、私は感謝しております。ただ実際 自分の家.町.を見るときはまだ帰る事ができません…悲しいです… ・福島県南相馬市は避難解除になっているけど避難している人達だけでも東京電力一回に(賠償金)要望して欲しいと思っています。 ・二重・三重生活で生活が困窮している。支援や援助はないか？

被災県	Q19避難者支援に関する意見
福島県	・福島県からの避難でもいろいろの避難の人がいるので、同じ立場（警戒区域からの避難者）の人と交流したい。横手市の避難者交流サロンは金曜日なのでなかなか参加出来ない。
	・子供たちに農業体験や自然の中での体験をさせてもらえるような機会があったらうれしいです。
	・いろんな面で支援していただき感謝しております。
	・東電の用紙を見るとドキドキして読めず書けないで月日が流れて困っています（一度も出ていません）（レシート類は消えてしまい別の用紙に書いています）。出さなくてはと思い家族からも体調をみて書いて欲しいと言われています。東電の方に一度電話して話しました。
	・秋田での生活に不満はないが、支出が収入を超えていて貯蓄が無くなれば帰県せざるを得ない。
	・借上期間 賃貸住宅の期間延長をもう少しして欲しい。 ・秋田県～いわき市（地元）に帰る時（一時帰宅）の時の高速無料が割引をきかせて欲しい。
	・借上期間を延長して欲しいです。
	・定住したいと考えている避難者に対して、秋田県はもっと秋田県の良さをアピールしてほしいです。そのための情報提供など積極的に行って頂きたいです。
	・何か相談するたびにきちんと応じていただき、解決できるように力をかけていただいています。横手市の支援員の方々には本当にお世話になっており、大変有り難いです。
	・いつもとても親切に接していただき、感謝しています。訪問など、冬の雪の多い季節にも来ていただき、ご苦労様でした。
	・自主避難から、定住へスムーズに考えられる様な環境、就労が欲しい。

被災県	Q19避難者支援に関する意見 ・最近の避難者支援の中で高速道路の無料措置の制度がありましたが、家族全員避難している為対象とはなりませんでしたが、しかし福島には祖父母があり、一ヶ月一回程度は福島に帰っています。ですので無料措置の対象を拡大して欲しいと思います。また、今後も借上住宅の期間延長を最優先で支援して頂きたいです。 ・いろいろお茶会や日帰り旅行などがありますが、仕事があり何も行きません。日帰り旅行は実際屋食代がもつたいたくなくて行けません。そのぐらい家計は逼迫しています。自分で望んで秋田に来たので我慢はできますが、もし企画していただいてる方が集まりが悪いのでお終いにするとなれば行きたい方に申し訳ないのでこのまま続けてもらえればいいと思います。 ・福島原発事故の真実をメディアで取り上げてほしい。国・東電に都合のいい情報に加工されている。震災後、家庭の中でケンカが多くなつた。何をどうしたら良いの考えると悪い結果しか描けない。 ・大変、力になって頂いていると思っています。今後どうぞよろしくお願い致します。 ・借り上げ住宅はとてもありがたいです。でもそれだけで 母子避難をつづけていくのはもう限界に近づいています。 ・現在の避難先で放射能検査が無償で受けられると嬉しいです。 ・私たちの場合は十分でございますので日々感謝しております。 ・3人の子ども達が3人とも小学校に入ってももう時には現在の経済状況よりよくなって欲しいと願っています。冬期間の光熱費が予想をはるかに上回りさらに冬期間の雪かき道具、防寒具、その他に関わる出費がかさみ収入は減っている状況で、ガス屋さんにはいまだに全て支払いを終えておりません。大変優しくご理解頂けるお店で助けて頂いております。ですが、私としては肩身が狭く毎月の支払いに頭を悩ませております。先日も被災者向けの借入について社協に伺いましたが、先の見通しがつかないまままま終了しました。周りの方々にご迷惑をかけ精神的に辛いです。こういったことを相談出来る場があれば助かると思います。・収入が少なくなりました。どうにか助けて欲しいです。
福島県	

IV 平成24年度と平成25年度の 比較

平成24年6月

【1】避難元の県

	件数	割合
① 岩手県	12	4.9%
② 宮城県	42	17.3%
③ 福島県	188	77.4%
④ その他	1	0.4%

【2】記入者の年代

	男性	女性	合計	内 訳		
	岩手県	宮城県	福島県	その他		
① 29歳以下	10	9	19	3	15	1
② 30代	33	73	106	5	15	86
③ 40代	18	38	56	3	3	50
④ 50代	12	4	16	6	6	10
⑤ 60代	21	15	36	2	11	23
⑥ 70代	5	2	7	2	2	3
⑦ 80代以上	3	0	3	2	1	
合計	102	141	243	12	42	188
						1

【3】現在の住居

	件数	割合	内 訳		
	岩手県	宮城県	福島県	その他	
① 県の借上民間賃貸住宅	138	56.8%	5	16	117
② 県営住宅	13	5.3%	1	3	9
③ 市町村営住宅	11	4.5%	1	1	9
④ 雇用促進住宅	13	5.3%		1	12
⑤ 知人・親類宅	38	15.6%	3	12	22
⑥ アパート等(自己負担)	19	7.8%	1	5	13
⑦ その他	11	4.5%	1	4	6
合計	243		12	42	188
					1

平成25年6月 (ゴシック二重線は新たな項目)

【1】避難元の県

	件数	割合
① 岩手県	9	4.1%
② 宮城県	50	22.7%
③ 福島県	161	73.2%
計	220	

【2】記入者の年代

	男性	女性	合計	内 訳		
	岩手県	宮城県	福島県	その他		
① 29歳以下	8	8	16	0	0	16
② 30代	32	39	71	1	17	53
③ 40代	18	38	56	2	6	48
④ 50代	15	3	20	1	8	11
⑤ 60代	21	15	36	2	12	22
⑥ 70代	5	7	14	1	5	8
⑦ 80代以上	6	1	7	2	2	3
合計	105	111	220	9	50	161
						0

【3】現在の住居

	件数	割合	内 訳		
	岩手県	宮城県	福島県	その他	
① 県の借上民間賃貸住宅	119	54.1%	2	17	100
② 県営住宅	8	3.6%	1	3	4
③ 市町村営住宅	9	4.1%	1	2	6
④ 雇用促進住宅	8	3.6%	0	1	7
⑤ 知人・親類宅(実家含む)	33	15.0%	2	10	21
⑥ アパート等(自己負担)	20	9.1%	0	9	11
⑦ 自宅(避難後に取得)	11	5.0%	1	3	7
⑧ その他	12	5.5%	2	5	5
合計	220		9	50	161
					0

【4】世帯構成

	全 体		内 訳				
	件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他	
児童・生徒 のいる世帯	母子避難	95	39.1%	2	10	82	1
	父子避難	1	0.4%			1	
	世帯避難	56	23.0%	3	10	43	
	単身	36	14.8%	2	8	26	
成人世帯	複数	55	22.6%	5	14	36	
	合計	243		12	42	188	1

【5】住民票の異動について

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 全員異動している	81	33.3%	7	21	53	
② 全員異動していない	150	61.7%	3	18	128	1
③ 一部だけ異動している	12	4.9%	2	3	7	
合 計	243		12	42	188	1

【6】住民票を異動しない理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 被災地との関係 を保つため	28	11.5%	2	3	23	
② あくまで一時的 な避難だから	55	22.6%	1	5	48	1
③ 住民票を異動すると 不利益がある、又はあ るかもしれないから	39	16.0%		5	34	
④ 特に理由はない	14	5.8%		4	10	
⑤ その他	17	7.0%	1	2	14	

【4】世帯構成

	全 体		内 訳				
	件数	割合	岩手県	宮城県	福島県	その他	
子育て世帯	母子避難	59	26.8%	0	4	55	0
	父子避難	1	0.5%	0	0	1	0
	世帯避難	74	33.6%	3	15	56	0
成人世帯	単身	46	20.9%	2	16	28	0
	成人夫婦	28	12.7%	4	9	15	0
	その他	12	5.5%	0	6	6	0
	合計	220		9	50	161	0

【5】住民票の異動について

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 全員異動している	95	43.2%	7	29	59	0
② 全員異動していない	108	49.1%	2	17	89	0
③ 一部だけ異動している	16	7.3%	0	4	12	0
合 計	219		9	50	160	0

無回答:1名

【6】住民票を異動しない理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 被災地との関係 を保つため	31	14.1%	1	9	21	0
② あくまで一時的 な避難だから	35	15.9%	1	5	29	0
③ 住民票を異動すると 不利益がある、又はあ るかもしれないから	45	20.5%	1	4	40	0
④ 特に理由はない	18	8.2%	0	5	13	0
⑤ その他	19	8.6%	1	5	13	0

【7】秋田に避難してきた理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 親類や知人がいる	156	64.2%	9	29	117	1
② 自分や家族が以前に住んだことがある	55	22.6%	5	9	40	1
③ 会社の関係	27	11.1%	2	7	18	
④ 子どもの学校の関係	11	4.5%	2	1	8	
⑤ 行政や地域からの支援への期待	26	10.7%	1	1	24	
⑥ 被災地に近い	14	5.8%	2	1	11	
⑦ 地震や津波などの災害が少ない	49	20.2%	4	8	36	1
⑧ 放射能汚染の心配がない	121	49.8%	2	4	114	1
⑨ 特になし	1	0.4%		1		
⑩ その他	23	9.5%		8	15	

【8】秋田県内での相談相手

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 家族・親戚	157	64.6%	10	29	117	1
② 友人・知人	105	43.2%	8	13	84	
③ 県内の他の避難者	46	18.9%		6	40	
④ 行政機関(相談員含む)	33	13.6%	3	6	24	
⑤ 民生・児童委員	0	0.0%				
⑥ 町内会・自治会の人	9	3.7%	2	1	6	
⑦ 民間の支援団体	2	0.8%			2	
⑧ 特定の相談相手はいない	39	16.0%		6	33	
⑨ その他	14	5.8%		2	12	

【9】主な生活資金

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 給料	160	65.8%	7	23	129	1
② 年金・恩給	43	17.7%	5	15	23	
③ 貯金	88	36.2%	3	12	73	
④ 親戚・知人からの援助	23	9.5%	2	2	18	1
⑤ 雇用保険・失業手当	16	6.6%	1	2	13	
⑥ 生活保護	2	0.8%		1	1	
⑦ 東電の損害賠償金	63	25.9%			63	
⑨ その他	9	3.7%		1	8	

【7】秋田に避難してきた理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 親類や知人がいる	142	64.5%	7	35	100	0
② 自分や家族が以前に住んだことがある	44	20.0%	1	10	33	0
③ 会社の関係	23	10.5%	2	9	12	0
④ 子どもの学校の関係	10	4.5%	1	3	6	0
⑤ 行政や地域からの支援への期待	12	5.5%	1	3	8	0
⑥ 被災地に近い	10	4.5%	0	1	9	0
⑦ 地震や津波などの災害が少ない	35	15.9%	1	9	25	0
⑧ 放射能汚染の心配がない	81	36.8%	1	5	75	0
⑨ 特になし	5	2.3%	0	2	3	0
⑩ その他	8	3.6%	0	2	6	0

【8】秋田県内での相談相手

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 家族・親戚	134	60.9%	8	32	94	0
② 友人・知人	98	44.5%	3	21	74	0
③ 県内の他の避難者	18	8.2%	1	2	15	0
④ 行政機関(相談員含む)	46	20.9%	2	11	33	0
⑤ 民生・児童委員	3	1.4%	0	1	2	0
⑥ 町内会・自治会の人	8	3.6%	0	3	5	0
⑦ 民間の支援団体	2	0.9%	0	0	2	0
⑧ 特定の相談相手はいない	31	14.1%	0	9	22	0
⑨ その他	6	2.7%	0	2	4	0

【9】主な生活資金

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 給料	135	61.4%	3	26	106	0
② 年金・恩給	51	23.2%	5	20	26	0
③ 貯金	57	25.9%	1	9	47	0
④ 親戚・知人からの援助	11	5.0%	0	4	7	0
⑤ 雇用保険・失業手当	3	1.4%	0	1	2	0
⑥ 生活保護	5	2.3%	0	3	2	0
⑦ 東電の損害賠償金	45	20.5%	0	0	45	0
⑨ その他	15	6.8%	2	3	10	0

【10】生活費の変化

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① かなりのかかり増し となっている	125	51.4%	3	16	105	1
② 多少のかかり増し となっている	83	34.2%	8	16	59	
③ あまり変わらない	27	11.1%	1	8	18	
④ 生活費はあまりかか らなくなった	5	2.1%		1	4	
⑤ 無回答	3	1.3%		1	2	
合計	243		12	42	188	1

【11】心身の不調

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① いる	101	41.6%	6	19	76	
② いない	130	53.5%	6	19	104	1
③ 無回答	12	4.9%		4	8	
合計	243		12	42	188	1

【12】行政サービスで、不便を感じる分野

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 特になし	141	58.0%	7	25	108	1
② 育児・児童福祉	36	14.8%	1	5	30	
③ 障害者福祉	3	1.2%	1	1	1	
④ 老人福祉	2	0.8%			2	
⑤ 母子保健	13	5.3%		3	10	
⑥ 医療・健康	50	20.6%	4	5	41	
⑦ 学校教育	12	4.9%	2	1	9	
⑧ その他の行政 サービス	16	6.6%		4	12	

【10】生活費の変化

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① かなりのかかり増し となっている	104	47.3%	5	18	81	0
② 多少のかかり増し となっている	67	30.5%	1	16	50	0
③ あまり変わらない	41	18.6%	3	14	24	0
④ 生活費はあまりかか らなくなった	8	3.6%	0	2	6	0
合計	220		9	50	161	0

【11】心身の不調

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① いる	95	43.2%	4	22	69	0
② いない	114	51.8%	4	22	88	0
③ 無回答	11	5.0%	1	6	4	0
合計	220		9	50	161	0

【12】行政サービスで、不便を感じる分野

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 特になし	155	70.5%	6	33	116	0
② 育児・児童福祉	10	4.5%	0	1	9	0
③ 障害者福祉	3	1.4%	0	1	2	0
④ 老人福祉	4	1.8%	1	1	2	0
⑤ 母子保健	5	2.3%	0	1	4	0
⑥ 医療・健康	26	11.8%	1	4	21	0
⑦ 学校教育	6	2.7%	0	1	5	0
⑧ その他の行政 サービス	7	3.2%	0	4	3	0

【13】支援制度など生活再建に必要な関係情報の提供が不十分と思う行政機関

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 国	149	61.3%	6	20	123	
② 被災県	99	40.7%	4	11	84	
③ 被災市町村	71	29.2%	3	7	61	
④ 秋田県	19	7.8%	2	5	12	
⑤ 秋田県内の居住市町村	11	4.5%		3	8	
⑥ 不十分とは思わない	60	24.7%	2	15	42	1

【14】行政機関等からの情報提供の手段として、もっと充実してほしいもの

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 広報・情報誌等の郵送	89	36.6%	8	13	67	1
② 各行政機関のホームページ	40	16.5%	2	7	31	
③ サロン等の拠点施設	16	6.6%		2	14	
④ マスメディアによる報道	64	26.3%	3	5	56	
⑤ 相談会・説明会	40	16.5%		4	36	
⑥ その他	19	7.8%	1	6	12	

【13】支援制度など生活再建に必要な関係情報の提供が不十分と思う行政機関

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 国	108	49.1%	3	17	88	0
② 被災県	67	30.5%	4	10	53	0
③ 被災市町村	55	25.0%	1	8	46	0
④ 秋田県	12	5.5%	0	2	10	0
⑤ 秋田県内の居住市町村	13	5.9%	0	2	11	0
⑥ 不十分とは思わない	66	30.0%	3	23	40	0

【14】行政機関等からの情報提供の手段として、もっと充実してほしいもの

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 広報・情報誌等の郵送	85	38.6%	3	16	66	0
② 各行政機関のホームページ	35	15.9%	1	7	27	0
③ サロン等の拠点施設	12	5.5%	0	4	8	0
④ マスメディアによる報道	64	29.1%	3	8	53	0
⑤ 相談会・説明会	26	11.8%	1	3	22	0
⑥ その他	16	7.3%	0	5	11	0

【17】今後の予定

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 帰県する時期を決めている	16	6.6%			16	
② 他県へ移動する時期を決めている	5	2.1%		1	4	
③ いずれは帰県したいが、時期は決めていない	93	38.3%	3	11	78	1
④ 秋田県内に定住したい	53	21.8%	3	13	37	
⑤ 他の都道府県に定住したい	0	0.0%				
⑥ 未定	72	29.6%	6	16	50	
⑦ 無回答	4	1.6%		1	3	
合計	243		12	42	188	1

【15】今後の予定

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 帰県する時期を決めている	11	5.0%	0	3	8	0
② 他県へ移動する時期を決めている	3	1.4%	0	0	3	0
③ いずれは帰県したいが、時期は決めていない	72	32.7%	3	12	56	0
④ すでに秋田県に定住している	35	15.9%	3	11	21	0
⑤ 秋田県に定住したい	47	21.4%	2	13	32	0
⑥ 他の都道府県に定住したい	3	1.4%	0	0	3	0
⑦ 未定	46	20.9%	1	10	35	0
⑧ 無回答	3	1.4%	0	1	2	0
合計	220		9	50	160	0

【18】時期を決められない主な理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 被災地での住宅が確保できない	28	29.8%	5	7	16	
② 街の再生など被災地の復興の目処が不明	36	38.3%	6	3	27	
③ 被災地の除染の目処が不明	58	61.7%	1		57	
④ 放射能による健康への影響が不安	75	79.8%		1	73	1
⑤ 被災地での仕事が見つからない	24	25.5%	2	7	15	
⑥ 子どもの育児、教育を優先したい	33	35.1%	1	2	30	
⑦ 福島県内で自主避難者用の施設がない	8	8.5%			8	
⑧ 避難元の市町村等からの指示に従いたい	5	5.3%	1		4	
⑨ その他	11	11.7%	2	1	8	

【16】時期を決められない主な理由

	件数	割合	内 訳			
			岩手県	宮城県	福島県	その他
① 被災地での住宅が確保できない	25	34.7%	3	9	13	0
② 街の再生など被災地の復興の目処が不明	27	37.5%	1	3	23	0
③ 被災地の除染の目処が不明	34	47.2%	0	0	34	0
④ 放射能による健康への影響が不安	46	63.9%	0	1	45	0
⑤ 被災地での仕事が見つからない	21	29.2%	0	3	18	0
⑥ 子どもの育児、教育を優先したい	23	31.9%	1	1	21	0
⑦ 福島県内で自主避難者用の施設がない	2	2.8%	0	0	2	0
⑧ 避難元の市町村等からの指示に従いたい	6	8.3%	0	2	4	0
⑨ その他	6	8.3%	0	2	4	0

【17】今、必要としている支援

	件数	割合	内 訳				その他
			岩手県	宮城県	福島県		
① 就労関係	45	18.5%	3	8	34		
② 避難生活に対する助成	110	45.3%	6	15	88		1
③ 障害者福祉サービス	6	2.5%	1		5		
④ 介護サービス	3	1.2%		1	2		
⑤ 医療費の助成	70	28.8%	8	14	47		1
⑥ 心身の健康の保持	24	9.9%		2	22		
⑦ 育児・子育て	46	18.9%	1	9	35		1
⑧ 子どもの教育・学習	34	14.0%	3	4	27		
⑨ 被災地からの情報提供	53	21.8%	6	7	40		
⑩ 秋田での暮らしの総合相談	14	5.8%		5	9		
⑪ 避難者交流会の開催	10	4.1%		3	7		
⑫ リフレッシュ事業への招待	16	6.6%	1		14		1
⑬ 生活再建にかかる相談	15	6.2%		5	10		
⑭ 放射能にかかる健康相談・検診	88	36.2%		3	85		
⑮ 原発事故の損害賠償の相談	52	21.4%		2	50		
⑯ 被災地への帰還（一時帰還を含む）	21	8.6%	1	2	18		
⑰ その他	22	9.1%		6	16		

【17】今、必要としている支援

	件数	割合	内 訳				その他
			岩手県	宮城県	福島県		
① 就労関係	42	19.1%	2	7	33		0
② 避難生活に対する助成	82	37.3%	2	17	63		0
③ 障害者福祉サービス	6	2.7%	1	3	2		0
④ 介護サービス	5	2.3%	1	1	3		0
⑤ 医療費の助成	60	27.3%	4	16	40		0
⑥ 心身の健康の保持	17	7.7%	0	4	13		0
⑦ 育児・子育て	32	14.5%	1	6	25		0
⑧ 子どもの教育・学習	34	15.5%	0	4	30		0
⑨ 被災地からの情報提供	40	18.2%	4	5	31		0
⑩ 秋田での暮らしの総合相談	13	5.9%	0	5	8		0
⑪ 避難者交流会の開催	13	5.9%	2	3	8		0
⑫ 各イベントへの招待	22	10.0%	2	2	18		0
⑬ 生活再建にかかる相談	17	7.7%	1	4	12		0
⑭ 放射能にかかる健康相談・検診	52	23.6%	0	1	51		0
⑮ 原発事故の損害賠償の相談	31	14.1%	0	0	31		0
⑯ 被災地への帰還（一時帰還を含む）	11	5.0%	0	1	10		0
⑰ その他	10	4.5%	0	3	7		0

V アンケート調査票（様式）

秋田県内に避難している皆様 へ

この度の東日本大震災により本県に避難してこられた皆様におかれましては、甚大なる被害を被られたことに対して、心からお見舞い申し上げます。

本県では、発災当初から避難者の受入れを積極的に行い、できる限りの支援を行ってまいりました。しかしながら、これまでに類を見ない大規模で広範囲な災害により、復興がなかなか進まない状況の中で避難生活も長期化しており、予想もしない問題の発生など皆様の支援ニーズも多様化しているのではないかと推測しております。

このため、昨年に引き続き皆様の支援ニーズを把握し、今後の支援施策の検討の参考としていくため、アンケート調査を実施することとしました。アンケート調査の集計結果については、被災各県にも提供して皆様の思いを伝えたいとも考えておりますので、お手数と思いますが御協力くださるようお願いいたします。

つきましては、別紙のアンケート調査票に必要事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒より、6月12日（水）までに御回答くださるようよろしくお願いいたします。

平成25年5月27日

秋田県企画振興部

総合政策課被災者受入支援室長

〒010-8750

秋田市山王四丁目1-1

電話 018-860-4504

県内避難者アンケート調査票

このアンケートは、世帯主（主として家計を維持している者）がご記入ください。

なお、世帯主が避難元の住居にとどまっている等の場合には、現に避難されている方々の代表者の方がお答えください。

1 ご家族の状況について

Q1 ご家族の状況等についてお答えください（該当する番号を「○」囲んでください）。

記入者	【区分】 ① 世帯主 ② 代表者
	【性別】 ① 男 ② 女
	【年代】 ① 29歳以下 ② 30代 ③ 40代 ④ 50代 ⑤ 60代 ⑥ 70代 ⑦ 80代以上
被災時の 居住地	① 岩手県 ② 宮城県 ③ 福島県 ④ その他（ ）
	市町村名について具体的に記入してください （ ）
現在の 居住地	市町村名について具体的に記入してください。 （ ）
	① 県の借上民間賃貸住宅 ② 県営住宅 ③ 市町村営住宅 ④ 雇用促進住宅 ⑤ 知人・親類（実家含）宅 ⑥ アパート等（家賃は自己負担） ⑦ 自宅（避難後に取得） ⑧ その他（ ）
避難の 状況	① 母子避難 ② 父子避難 ③ 親子全員の世帯避難 ④ 成人夫婦避難 ⑤ 単身避難 ⑥ その他
住民票 につい て	現在、居住している県内の市町村に住民票を異動していますか。
	① 全員異動している ② 全員異動していない
	③ 一部だけ異動している（異動していない方 続柄 ）
	住民票を異動しない理由を伺います。
	① 被災地との関係を保つため ② あくまで一時的な避難だから ③ 住民票を異動をすると不利益がある、又はあるかもしれないから ④ 特に理由はない ⑤ その他（ ）

2 避難の状況について

Q2 秋田県に避難してきた理由についてお答え願います。(複数回答可)

- ① 親類や知人がいる ② 自分や家族が以前に住んだことがある
- ③ 会社の関係 ④ 子どもの学校の関係
- ⑤ 行政や地域の支援への期待 ⑥ 被災地に近い
- ⑦ 地震や津波などの災害が少ない ⑧ 放射能汚染の心配がない
- ⑨ 特になし
- ⑩ その他（ ）

Q3 日常生活での困り事について、秋田県内での相談相手はどのような方ですか。(複数回答可)

- ① 家族・親戚 ② 友人・知人 ③ 県内の他の避難者
④ 行政機関（相談員を含む） ⑤ 民生・児童委員
⑥ 町内会・自治会の人 ⑦ 民間の支援団体
⑧ 特定の相談相手はいない ⑨ その他（

Q4 現在の世帯の主な生活資金について、お答え願います。(複数回答可)

- ① 給料 ② 年金・恩給 ③ 貯金 ④ 親戚・知人からの援助
⑤ 雇用保険や失業手当 ⑥ 生活保護 ⑦ 東電の損害賠償金
⑧ その他（ ）

Q5 被災前と比較し、現在の生活費はどのような変化がありましたか。

- ① かなりのかかり増しとなっている ② 多少のかかり増しとなっている
③ あまり変わらない ④ 生活費はあまりかからなくなった

Q6 現在、同居の家族の中で、秋田県内に避難してから、「眠れない」「集中力の低下」「イライラする」といった精神面の不調や「体がだるい」「めまいや頭痛」といった身体の不調を訴えるようになった方はいらっしゃいますか。

- ① いる（症状を具体的に： ） ② いない

Q6-1 県では、希望される方に対しまして、保健師が訪問し健康に関する相談活動を行う予定にしております。訪問相談を希望しますか。

- ① 希望する ② 希望しない

※ 希望する方は、個別票にてご連絡ください。

3 避難先での行政サービス

Q7 現在居住している市町村から提供される行政サービスで、不便を感じる分野について、お答え願います。(複数回答可)

- ① 特になし ② 育児・児童福祉 ③ 障害者福祉 ④ 老人福祉
⑤ 母子保健 ⑥ 医療・健康 ⑦ 学校教育
⑧ その他の行政サービス

(具体的にどのような点で不便を感じますか、ご記入ください)

[illegible]

4 避難者の支援

Q8 支援制度など生活再建に必要な関係情報の提供が不十分と思う行政機関をお答え願います。(複数回答可)

- ① 国 ② 被災県 ③ 被災市町村 ④ 秋田県
⑤ 秋田県内の居住市町村 ⑥ 不十分とは思わない

Q9 行政機関等からの情報提供の手段として、もっと充実してほしいものをお答え願います。(複数回答可)

- ① 広報・情報誌等の郵送 ② 各行政機関のホーム・ページ
- ③ サロン等の拠点施設 ④ マスメディアによる報道
- ⑤ 相談会・説明会
- ⑥ その他（具体的に：

5 就労の希望

Q10 避難しているご家族の中で、就労の希望のある方はご記入ください。

希望者の続柄			
年 齢	() 歳	() 歳	() 歳
求職状況	① 現在求職中 ② () 月から求職	① 現在求職中 ② () 月から求職	① 現在求職中 ② () 月から求職
希望する 勤務形態	① 正規雇用 ② 期間雇用 ③ パート	① 正規雇用 ② 期間雇用 ③ パート	① 正規雇用 ② 期間雇用 ③ パート

Q11 起業・創業を希望する方は、お答え願います。

- ① 起業・創業を希望する ② 支援制度を知りたい

※ 支援機関・団体をご紹介しますので、個別票にてご連絡ください。

Q12 農林水産業への従事を希望する方は、お答え願います。

- ① 経験があるので、直ちに従事したい
- ② 研修を受けてみたい
- ③ 支援制度を知りたい

※ 支援機関・団体をご紹介しますので、個別票にてご連絡ください。

6 今後の予定について

Q13 今後の予定について、お答え願います。

- ① 帰県する時期を決めている（ 年 月ころ）
- ② 他県へ移動する時期を決めてる（ 年 月ころ）
- ③ いずれは帰県したいが、時期は決めていない⇒ Q 1 4 〜
- ④ すでに秋田県に定住している
- ⑤ 秋田県に定住したい・定住を決めている⇒ Q 1 3 - 1 、 Q 1 3 - 2 〜
- ⑥ 他の都道府県に定住したい
- ⑦ 未定（理由： ）

Q 1 3 - 1 秋田県内への定住について、どの程度の期間を想定していますか。

- ① 永住したい
- ② 今回の就職先を定年退職するまで
- ③ 子どもが独立するまで
- ④ 子どもが高校を卒業するまで
- ⑤ 子どもが義務教育を終了するまで
- ⑥ 県外で就職先を見つけるまで
- ⑦ 住宅の借上制度が終了するまで
- ⑧ その他（ ）

Q13-2 秋田県への定住を考えるにあたり、どのような支援を望みますか。(複数回答可)

- ① 医療・福祉の助成
- ② 不動産情報（空き家、空き地）の提供
- ③ 住宅購入・リフォームに対する支援
- ④ 公営住宅への優先入居
- ⑤ 育児・教育の助成
- ⑥ 公共交通機関の利用助成
- ⑦ 就業支援
- ⑧ 起業支援・経費助成
- ⑨ 既移住者とのネットワーク形成、体験談を聞く機会の設定
- ⑩ 地元住民との交流会の開催
- ⑪ その他（ ）

Q14 「Q13」で「③いずれは帰県したいが、時期を決めていない」方に伺います。決められない主な理由をお答え願います。（複数回答可）

- ① 被災地での住宅が確保できない ② 街の再生など被災地の復興の目処が不明
③ 被災地の除染の目処が不明 ④ 放射能による健康への影響が不安
⑤ 被災地での仕事が見つからない ⑥ 子どもの育児、教育を優先したい
⑦ 福島県内で自主避難者用の施設がない
⑧ 避難元の市町村等からの指示に従いたい
⑨ その他（ ）

7 支援の要望について

Q15 今、必要としている支援について、下の事項から4つ以内で選択してください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| ① 就労関係 | ② 避難生活に対する助成 |
| ③ 障害者福祉サービス | ④ 介護サービス |
| ⑤ 医療費の助成 | ⑥ 心身の健康の保持 |
| ⑦ 育児・子育て | ⑧ 子どもの教育・学習 |
| ⑨ 被災地からの情報提供 | ⑩ 秋田での暮らしの総合相談 |
| ⑪ 避難者交流会の開催 | ⑫ 各種イベントへの招待 |
| ⑬ 生活再建にかかる相談 | ⑭ 放射能にかかる健康相談・検診 |
| ⑮ 原発事故の損害賠償の相談 | ⑯ 被災地への帰還（一時帰還を含む） |
| ⑰ その他（ | |

Q16 秋田県や、今居住している市町村に対する要望を自由にお書きください。

Q17 国に対する要望を自由にお書きください

100

Q18 避難元の県や市町村に対する要望を自由にお書きください。

Q19 その他避難者支援に関するご意見を自由にお書きください。

アンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。

本アンケート調査票を同封の返信用封筒により、6月12日（水）までに返送ください。

なお、本アンケート調査の集計結果については、県のホームページ等により公表するほか被災県にも提供しますが、個人が特定されることのないよう十分に配慮します。

担当・問い合わせ先

秋田県総合政策課被災者受入支援室

TEL 018-860-4504 FAX018-860-4520

